

事業報告書及びその付属明細書

2024年度

自2024年4月1日 至2025年3月31日

公益社団法人アジア協会アジア友の会

アジア協会アジア友の会(JAFS)のめざすもの

I. 基本理念 (Vision)

文化の多様性を尊重し、誰もが生まれてきて良かったと思える地球社会の創造をめざし、以って各自の生命(いのち)の価値を高める。

II. 基本課題 (Mission)

1. アジアの開発途上地域において人間として最低限の衣食住や教育、生活環境が確保出来ない人々への支援を通して自立へのきっかけ作りを行う。
2. 国際社会に必要なボランティア活動の育成と推進

III. 基本目標 (Goal)

アジアの善意を結集して地球社会奉仕活動を推進し、以って人間として各自に与えられた生命(いのち)の役割を果たす。

IV. 基本活動 (Program offered)

1. 国際協力支援事業の推進
2. 国際人的ネットワーク網の確立
3. 日本における良き社会づくりの推進

- 目次 -

2024年度 事業報告 概要				1
Ⅰ. 開発支援事業				
	A. 水事業	1. 井戸・飲料水供給		10
	B. 子ども事業	1. 初等教育普及・向上		12
		2. 教育設備・環境整備		13
		3. HIV/AIDS 子ども感染予防		
		4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護、教育支援		
	C. 貧困対策事業	1. 地域産業づくり ・能力開発	(1) 小規模産業育成	15
			(2) 職業訓練	
		2. 保健衛生指導・医療	(1) トイレ建設	
			(2) 医療支援	
	3. 提携NGO運営助成		16	
	D. 環境事業	1. 植林・水源涵養林		17
		2. 環境改善・国際グリーンスカウト		
		3. 再生可能エネルギー資源活用・普及		18
E. ワークキャンプ・視察	1. ワークキャンプ		19	
	2. 海外プロジェクト視察			
Ⅱ. 国際交流事業				
	A. 人材交流・育成事業	1. 奨学金支援		22
		2. 海外ボランティア研修制度		
	B. ネットワーク推進事業	1. 国際会議	(1) アジア国際ネットワークセミナー	23
			(2) 国際ネットワーク機能強化事業	
			(3) アジア・フレンドシップ夢基金	
	2. 国際体験交流（スタディツアー等）			
資料：海外提携団体AFSネットワーク			25	
Ⅲ. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業				
	A. 災害等罹災者支援事業	1. 災害等罹災者支援事業	(1) ネパール中部地震 災害復興支援	28
			(2) ネパール防災事業	
			(3) ウクライナ支援	29
			(4) 能登地震支援	
			(5) バングラデシュ東部水害被災者支援	
			(6) フィリピン連続大型台風被災者支援	
		2. 災害における緊急支援対応活	(1) 災害発生時初動対応活動	30
			(2) 東日本大震災 被災地復興見守活動	
Ⅳ. 普及啓発事業				
	A. 地域広報活動事業	1. 本部活動	(1) JAFSチャリティプログラム	32
			(2) 国際理解教育講座	
			(3) 国際ボランティア啓発活動	
			(4) アジア文化理解講座	
			(5) 研修生・実習生受入プログラム	
			(6) 法人関連プログラム	33
			(7) JAFS社員クラブ	
			(8) JAFSアジア市民大学	
			(9) 日本語スピーチコンテスト	

			(10) JAFS SDGsアワード	
			(11) JAFS日本語サポート	
			(12) 「水」写真コンテスト	
			(13) 関連プログラム／その他団体協力	34
		2. 地区活動	(1) 会員委員会	
			(2) 地区世話人一覧	
			(3) 第1エリア	
			(4) 第2エリア	
			(5) 第3エリア	35
			(6) 第4エリア	
			(7) 第5エリア	
			(8) 第6エリア	
			(9) 第7エリア	
			(10) 第8エリア	
			(11) 第9エリア	
			(12) 第10エリア	36
		3. 広報	(1) アジアネット	
			(2) ホームページ／フェイスブック	
		4. プロジェクト支援会	各ファミリーグループ・支援会	37
		5. 関連市民活動	(1) 関西ナショナル・トラスト協会	
			(2) 各部会活動	38
	B. 環境保全・環境教育(国際グリーンスカウト運動)		(1) 土と水と緑の学校	
			(2) 各部会活動	39
V. 運営管理				
	A. 社員総会			
	B. 役員一覧			40
	C. 理事会			
	D. 常置委員会			41
事業報告の付属明細書				42

2024年度 事業報告

45年間事務局運営を担ってきた創設者の引退を受け、2024年度は新たな組織運営を模索する一年であった。

事業に関しては、安全な水の安定供給がままならない人々への対応を行うことが出来たが、未来予想図を描けるような支援についての検討に先駆け、選択と集中を行う一歩として事業の見直しを国内外共に実施した。

アジアのネットワークにおいては、日本と同等な経済力を有する国がリーダー力を発揮してきた。若手の人材育成と、次世代ネットワークを強固にする検討と活動が行われるようになった。同時に、ネットワークの活動に社会的なインパクトを持たせるために、当会の創立記念日の10月10日に環境活動を全ネットワークで実施することが決定された。ロシアによるウクライナ侵攻は続き、日本経済は依然低調である中、米国のUSAIDの支援撤退を受け、日本の国際協力がアジア内で頼りにされる状況となっている。これまで以上に市民活動NGOとして支援の継続と支援者の確保が必要である。そのため支援者の意見を聞くアンケートを実施し、健全な運営へと改善の参考とした。同時に、運営の課題を解決するためにも、フレッシュな風を入れる(新スタッフ募集)ことにより風通りを良くし、「貧困なき社会の創造」の実現に向け、今の社会に求められる当会の役割をしっかりと果たして行く方向を目指すこととなった。

以下、活動概略を事業別に報告する。

公益事業Ⅰ.「開発支援事業」では、安全な水の提供を目指した水供給事業を軸として、教育、貧困対策、環境の4項目(詳細は下記)の実施により、アジア各地の貧困地域及びマイノリティの人々が暮らす地域の自立支援活動を支えた。いくつか検討中の事業があったが、残念ながら資金確保や現地での支援体制が整わず実施することが出来なかった。格差問題がアジア社会で大きな課題となっている中、地域における産業づくりや社会の仕組みづくりが必要であり、そのため各国の未来を担う子ども達の教育支援が重視されている。そのためにSDGsの達成を活動に組み込み、4項目の連動したプロジェクトづくりを考慮していくことが2030年に向けて必要であることを実感する1年であった。

公益事業Ⅱ.「国際交流事業」では、第30回アジア国際ネットワークセミナー(AINS)を10月にスリランカで実施し、「貧困を解決し地域リーダーを育てるために教育が果たすべき役割」をテーマに12か国77名が参加した。同時に10月10日を国際環境活動デーにして全体で活用すること、次世代の育成を今後の大きなテーマにすることが決められた。また、「理解と協力と連帯」によるAFSネットワークのつながり国際コーポレート事務局をネットワークメンバーで運営する方向で相談され始めた。海外ボランティア研修制度では、上記AINSに2名のインターン生を派遣した。人材交流では、フィリピンASIの地域開発コースヘインド学生1名の奨学支援をした。

公益事業Ⅲ.「災害等罹災者に対する生活支援事業」では、ネパールにて防災事業“防災力強化による持続可能な地域づくり事業”の2年目を1農村型自治体25,365人に対して実施。事業目的の達成のため2025年6月までを2年次事業期間とした。また、地震災害復興支援にて2022年に設置した揚水システムが川の氾濫で流され応急対応と共に再構築の準備を行った。加えて、ジャジャルコット地震被災地へ物資支援を実施した。ウクライナ支援は、スームイ州トスタネツカ市民病院の理学療法士・作業療法士への技術支援を行う予定で進めたが頻繁な攻撃が現地を襲ったことで実際の研修は次年度へ繰り越した。能登半島支援は、現地へ7回訪問し、輪島市、珠洲市、穴水にて炊き出しや交流支援、避難所へ家電製品の支援をおこなった。加えて年度中に発生したバングラデシュ東部水害の被災者へ食料提供を通じた健康状態改善をマイノリティの人々の居住者が多い2県で実施した。また、フィリピンで11月に発生した台風マンイーの被害をうけた400世帯へ食料や野菜種の支援をおこなった。以上の緊急人道支援活動を行い、支援から取り残されている人たちの日々を守り、彼らに寄り添う活動を行った。活動を実施する上で、緊急支援が必要な災害等が起きた際、迅速に初動対応(初動調査含)ができるための資金は勿論だが活動人材の確保が重要で、人材バンクの必要性を感じた。

公益事業Ⅳ.「普及啓発事業」では、より多くの市民が参加できる方策を立て、市民活動として人々の日々の暮ら

しに定着するボランティア活動の推進を地区活動、プロジェクト支援会活動を通じておこなった。同時にイベントやセミナーなどを行い、参加からボランティア活動の第一歩が体験できることで、理解者や支援者拡大を目指した。在日アジア人との多文化共生を目指して開催しているアジア・チャリティフェスティバルや日本語スピーチコンテストはそれぞれ1回開催した。地域環境保全活動は「第41回土と水と緑の学校」を新宮で開催。グリーンスカウトやブルーオーシャンレンジャー活動を通じて環境活動を実施した。一方、会報誌やHPの内容充実に加え、「水」写真コンテストにより公共の場での広報活動などをおこなった。

運営面では、理事による各委員会中心に計画づくりと着実な進捗を行い、活動の裾野を広げると共に運営システムを整える対応をおこなった。そのために、委員会を通した運営実施を確立していき、特別委員会で検討した事業運営改善点・意見書を各委員会で検討するなど、次なるステップへ進むための活動を行った。また、海外事務所における内部統制状況等の確認を実施した。

活動詳細について、以下のとおり報告します。

I. 公益目的事業1 開発支援事業

A. 『水事業』 - 安全な飲料水供給をめざした井戸建設支援事業 -

1. 井戸・飲料水供給

2024年度は、アジア6カ国(インド(4)、カンボジア(17)、スリランカ(12)、ネパール(16)、バングラデシュ(4)、フィリピン(12))の農村48カ所に65基の井戸又はパイプラインを完成することができ、水くみに長時間労働を強いられていた人々が水へのアクセスが容易となり、生活環境の改善、感染予防や疾病予防等の衛生環境改善や学校生活そして生業を営むために必要な水の確保を行うことができた。

本実施により累計2,366基の井戸をアジア各地に贈ることができた。

B. 『子ども事業』 - 貧困層の子どもたちの生活向上を目指した各種支援事業 -

1. 初等教育普及・向上事業(インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン)

教育里親制度(就学資金の提供)により、上記5カ国の就学生294名に教育支援を行った。現地の教育制度が整いつつあるが、コロナ後の経済格差により貧困層の更なる困窮者が増加し、制服を買えない文具を買えないことで学校へ行かなくなる可能性がある世帯の子ども達が途中退学せず高校まで教育を受けることができる支援および、教育環境の維持や運営のために支援を実施した。

2. 教育設備・環境

- ネパール:ナワルプル郡の学校校舎1棟の建設は着工完成した。
- バングラデシュ:老朽化した5校のトイレ再建支援は現地に洪水が発生し実施できなかった。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

- インド:タミルナードゥ州のディンディガル、ナマカル2県のHIV/AIDSの子どもおよび、家族2世帯に生活補助と教育支援を行った。今年度で本支援は最終とした。

4. 栄養改善とストリートおよび、スラムの子どもたちの保護・教育支援

(1) 栄養改善(ネパール)

タライ平野の低所得地域のピトゥリ村スリーサンティ小學校生徒155名に対して、卵と牛乳の給食支援を実施し、子どもたちの栄養状況改善を行った。

栄養士育成の対象者3名の内、2名は日本での栄養士過程の学びのため4月より栄養専門学校への進学し1年目の学習を修了した。他1名は大学院で栄養学博士課程の2年目の学習を終え、論文研究を進めている。

今年度より味の素ファンデーション助成を受け、農村の食生活改善活動をシンドゥパルチョーク郡インドラワティ村 10 区とナワルプル郡カワソティ市ピトゥリ村にて、キッチンカーを活用した栄養指導プログラムを現地のトリブヴァン大学との共同事業として 2 年目の活動を行った。食事改善員の育成のための講習を開始した。

(2) ストリートおよび、スラムの子どもたち支援(インド、フィリピン)

・フィリピン: マニラのストリートやスラム地区及び郊外の移住地に暮らす子どもたち 96 名への教育支援をおこなうとともに生活習慣・衛生環境改善等の啓発プログラムを実施し継続的に学べる環境づくりをおこなった。

C.『貧困対策事業』-自助自立を目指して、収入・雇用を生み出す諸プログラムの推進及び指導-

1. 小規模産業育成・職業訓練

- スリランカ: バンドゥッラ県ライディーマリヤダ地区、カンダケティア地区の女性 40 名に酪農、農業、縫製などの訓練を通じて事業展開する支援を行い、子ども達の栄養と就学の改善につなげた。
(公財)森村豊明会助成事業)
- ネパール: シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村の 5 世帯が安定収入を得る第 1 歩として養豚・養ヤギを実施し収入向上を目指した。
- ネパール: シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村 10 区が継続的に農業振興を行えるように農業専門高等学校で学べるよう、1 名を奨学生とし、6 年間コース 5 年目支援をおこなった。同時に、多種の家畜の活用や、混植農業を実施してモデル農業づくりを引き続き実施した。
- フィリピン: ソルソゴン州の農漁村の所得向上をめざし、マングローブ保全区域をまもるために、植樹地の整備や育苗を実施。農村地域の生活困窮者の収入向上を目的として有機肥料による土壌改良を引き続きおこない、収穫量が以前より増加した。
- フィリピン: アンティーク州パンダン町の障がい者へIDカード発行を継続して実施。ブリック製造を行政と連携して自立運営を目指した。

2. 保健衛生指導・医療

- インド: マハラシュトラ州ムスカ村の病院が、現地のニーズ規模に合う病棟 1 棟の建設を 2025 年 8 月完成を目指して実施中。
- ネパール: シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村で女性の健康維持できるように生理用ナプキンの活用をすすめ、地元でナプキン制作し 20 名に普及した。

3. 提携 NGO 運営助成

本会の現地提携団体の運営管理強化の為に、インド(RUDYA)の運営支援と活動強化を行った。

D.『環境事業』- 自然環境保全、及び再生に必要な諸活動の支援 -

アジア 5 カ国において 6,355 本の植林を実施した。地域の森林減少への歯止め、水環境の確保、そして農業により生計を立てている農村地域の持続性に繋げる環境整備を行った。詳細は以下の通り。

1. 植林・水源涵養林養育支援

- ネパール: シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村 10 区から始めたコーヒー植樹が 1 区、2 区、3 区、7 区、9 区 11 区、12 区にも広がりコーヒー栽培による緑化及び地域産業づくり事業を実施。日陰樹 750 本、コーヒー苗 1,700 本の植樹とコーヒー苗の育苗 10,000 床を行い、その為に日本人専門家による研修をおこなった。(令和 5 年度および令和 6 年度「緑の募金」公募事業)
- バングラデシュ: ボリシャル県・ガジプール県・ネトロコーナ県のノンフォーマル教育を受ける学校の子どもたちへの環境教育と緑化活動を目的に、3 校で 700 名が学校とその周辺にマンゴーの苗木 1,305 本を植林し、地域の緑化をおこなった。(2024 年度「連合・愛のカンパ」中央助成事業)

- フィリピン:アンティーク州パンダン町の水源地森林保全の為に苗木づくりと植林 2,000 本を実施した。
- スリランカ:マータレー県とモナガーラ県の計 12 地区にて果樹等 600 本を植林し、青少年が育成に携わる活動を推進した。

2. 環境改善・市民による環境保全活動(国際グリーンスカウト運動)

1986 年に発足した本会提唱の環境保全市民運動(通称、グリーンスカウト運動)は、現地提携団体を中心に様々な地球環境保全活動が 4 カ国で行われた。

- ネパール:シンドゥパルチョーク郡インドラワティ農村型自治体では、ゴミ問題を解決するために、環境ジュニアリーダー育成を行い、7 か所の防災センターに焼却炉兼ゴミ箱を設置した。
- ネパール:地域の環境保全を行うために、2 カ村 3 校にて環境美化活動、植林、地域清掃を学生主導で行い、グリーンスカウト運動推進をおこなった。
- フィリピン:パナイ島 パンダン島とシバロン市で環境保全のための青少年サマーキャンプを開催し、子どもたちが環境活動に意識を向けられるよう人材育成をおこなった。
- フィリピン:マトノグ町で、地域環境保のためのゴミ分別セミナーを 51 回開催し 628 名が参加した。に環境プログラム、合計 624 名が参加したクリーンアップ活動を実施。学校や幼稚園と連携し、環境活動の実践と習慣化の促進を行った。(第 19 回 TOTO 水環境基金助成事業)
- スリランカ:村や学校を拠点にユースリーダー育成し、活動の輪を広げた。
- インドネシア:バリ州・デンパサール市の海岸マングローブ林とタバナン県の山村で、小学生・大学生・地域住民および日本人ボランティアが、植林およびプラごみ回収クリーン活動などのグリーンスカウト運動を推進した。

3. 再生可能エネルギー資源活用支援事業

本年実施することが出来なかった。

F. ワークキャンプ、プロジェクト視察

ワークキャンプは、関係団体・学校の依頼による活動を実施し、カンボジアとネパールで計 6 回の活動をおこなった。プロジェクト視察に関しては支援事業の視察ツアー、講習会実施を含め、ネパール 13 回、スリランカ 2 回、バングラデシュ 1 回、フィリピン 1 回、タイ 1 回、カンボジア 1 回の 6 カ国 19 回を実施した。

II. 公益目的事業 2 国際交流支援事業

A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

- 将来の本会のネットワーク事業を担う各国各部会の職員の研修、育成のために奨学金支援を行っている。フィリピンのアジア社会科学院(ASI)の地域開発コース受講にインドの学生 1 名の奨学金支援を行った。

2. 海外ボランティア研修制度

第 30 回アジア国際ネットワークセミナーに 2 名のインターンシップ生を派遣し、研修を実施した。

B. ネットワーク推進事業

1. 国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

第 30 回アジア国際ネットワークセミナーを 10 月 18～23 日、12 ヶ国 77 名の参加者によりスリランカで開催。同時にユース世代育成プログラムを実施した。

(2) 国際ネットワーク機能強化事業

アジア国際ネットワーク事務局に新しいスタッフを設置、それに伴うアジアにおけるネットワーク強化を推進した。

(3) アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金。アジア 8 カ国が参加している。本年度も、募金のための世話人会を設けて、「夢基金」という名目で国際基金募金に協力した。

2. 国際体験交流(スタディツアー等)

インドネシアのジャワ島とバリ島(2月)へのスタディツアーを実施した。

Ⅲ. 公益目的事業 3 災害罹災者に対する生活支援事業

A. 災害等罹災者支援事業

1. ネパール中部地震 災害復興支援

シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区(旧ボテシバ村)で、2015 年 4 月 25 日に発生した地震の被災地、被災者に対して、復興及びその後の持続可能な地域づくりのための揚水システムの運営フォロー支援を行ったが、7 月と 9 月の大洪水で取水エリアの設備が流され、水利用をするためにシステムの活用が出来なくなった。修繕のための再建計画の準備をおこなった。昨年地震が発生したジャジャールコット市に対して避難袋の支援をおこなった。

2. ネパール防災事業

インドラワティ農村型自治体の全地域 12 区を対象の「シンドゥパルチョーク郡の農村型自治体における防災力強化事業」の 3 年間事業の 2 年次事業を実施した。2 年次は、1 年次に完成した防災センターの譲渡式を実施し、その後情報共有システム運用能力を高める知識習得と実践、災害リスク軽減のハード対策を目標とし、公共放送(FM ラジオ局)の運営管理技術講習 / 放送の運営スキル・知識習得/土砂災害リスク軽減(斜面崩壊)対策工事 / 自治体及び学校での防災講習 / 防災備蓄倉庫 7 棟の建設をおこなった。講習会は計 7 回実施し、合計 461 名に行った。2 年次は 2025 年 6 月 20 日まで延長することとした。(本事業は、日本 NGO 連携無償資金協力との共同により実施)

3. ウクライナ支援

「スームィ州トロスタネツカ市民病院のリハビリテーション人材育成による被害者への健康回復機能強化事業」ウクライナ、スームィ州トロスタネツカ市にある市立病院に勤務している学療法・作業療法士のレベルアップの為に経験値の高い理学療法士・作業療法士よりの指導を受ける事業を予定していたが、上記病院地域への攻撃が重なり、来年度に実施することとなった。

国内の避難民の方々対象の日本料理教室の講師を派遣し、日本で暮らしが安心できるためのプログラムに協力した。

4. 能登地震支援

2024 年 1 月 1 日の能登地震とその後発生した洪水による被害を受けた地域を 7 回訪問し、新鮮な野菜やお肉、水分も摂取できるあたたかい食事を提供する炊き出しを、珠洲市、輪島市、穴水町で実施した。加えて、避難生活が長く続く中、映画鑑賞会やピアノコンサートを行い、心の安らぎや地域コミュニティの活性化の一助にも協力した。避難所に必要な冷蔵庫などの家電製品の支援も行った。

5. バングラデシュ東部水害被災者支援

東南アジアで長期化した長雨の影響により水没した地域の食料不足への対応、特に少数民族、

宗教的マイノリティの人々が多く住み、支援が十分行き届かずに栄養失調を発症していた地域 8,000 世帯に対して、住民の基本的ニーズを満たす食料と衛生品の支援をおこなった。

6. フィリピン連続大型台風被災者支援

11 月 15 日の大型台風マンイーにより被害をうけたカタンドアネス州パロンバナネス島の住民 361 世帯に対して食料品と野菜の種支援を 2 回実施。また、大型台風 13 号(ビエンカ)の被害をうけたアンティーケ州パンダン町にて食事提供や支援物資配布、被害を受けた学校や家屋、森の修復支援をおこなった。

B. 災害における緊急支援対応活動

1. 災害発生時初動対応活動

緊急支援が必要な災害等が起きた際、迅速に初動対応(初動調査含)ができるための資金を確保するために、緊急支援募金の一定額を緊急支援対応基金に充てることとし、合わせて人員確保のため人材バンクづくりを行うこととした。

2. 東日本大震災 被災地復興見守活動

東日本大震災支援活動で設置した味噌工房が継続的な運営ができるよう、南高梅や紫蘇の物資支援を行い、味噌の端境期に梅干しづくりが行えるサポートをした。

IV. 公益目的事業 4 普及啓発事業

A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) JAFS チャリティプログラム

本会の活動に様々な形で一般市民に加わってもらえるようチャリティ企画を行った。恒例の春と秋のJR住道駅前(大阪府大東市)の JAFS チャリティバザールは、今年度で中止。12 月には「第 9 回アジア・チャリティフェスティバル」を開催し、大阪国際交流センターに 192 名が集まった。参加者の 18%が外国人の参加で、16 のステージ、19 の出店があった。多文化共生の観点から在関西のアジア系市民との交流を深めることができた。(公益財団法人大阪国際交流センター共催)

(2) 国際理解教育講座の推進

国際理解教育に関する講義を高校、大学、専門学校や国際協力に関心のあるグループ・団体にて実施。幅広い層の人たちへの国際理解推進につなげた(講師派遣のべ 8 カ所、参加生徒・団体の員数 380 名)。

(3) 国際協力ボランティア活動

JAFS ぞうすいの会や地区活動にて、適宜、海外プロジェクト報告を行い、プロジェクト理解の促進やアジア社会の現状の理解につなげた。

(4) 異文化理解講座

日本に住むアジアをはじめとする外国人の方々よりそれぞれの歴史、文化、日常生活、政治経済まで多岐にわたる話題を話し相互理解を深める「アジアの仲間」を 1 回開催した。

(5) 留学生との交流事業

アジアと日本の絆を深める活動の一環として、第 5 回日本語スピーチコンテストを 10 月に開催し、12 名の留学生と社会人 4 名が出場、聴講者 47 名が出席し、3 名の留学生が最優秀賞、優秀賞、奨励賞、1 名の社会人が最優秀賞を受賞した。

(6)在留外国人との交流・支援事業

大阪市西区の小学校にて、外国にルーツがある児童で、日本語指導が必要な児童を対象に、日本語サポート活動を実施。3年目の対象児童は前半5名、後半4名、計9名。学校生活や授業、日本での日常生活に少しでも馴染めることを目指してサポートを行った。

(7)SDGs 理解と推進活動

サステナブルな未来のために、SDGs の観点より、「JAFS サステナブルウォーター アワード」を設け、3年間継続的に井戸支援に協力くださった1団体に感謝状を贈呈した。

3月22日の世界水の日に伴い、「水」写真コンテストを開催。第4回「水」写真コンテストは国内外から92点の応募作品があり、阪急うめだ本店祝祭広場にて投票審査を行った。(2025年2月19日～2月24日)結果は、一般部門・ユース部門において各最優秀賞・優秀賞の4作品、一般投票からオーディエンス賞1作品、審査委員長特別賞1作品の6作品が入賞した。水の大切さを振り返ってもらう一助にした。

(8)研修生・実習生受け入れプログラム

インターンシッププログラムに個人応募した大学生1名と、インターン紹介団体を介した大学生4名が、本会での活動を通じて、国際協力団体の活動内容および市民活動の運営に関して学んだ。

(9)法人関連プログラム

法人賛助会主催で日本銀行理事・大阪支店長 中島健至氏による講話と交流会 4月16日に実施し24名が参加した。

(10)関連プログラム／他団体協力及び他セクターとの協働

関係団体と連携の中、ネットワーク NGO に加盟し、相互協力を行っている。関西の NGO 活動の推進のため、関西 NGO 協議会(KNC)の理事(副代表)、国際協力 NGO センター(JANIC)の理事、関西国際交流団体協議会は監事として関わり、各ネットワーク NGO を通して市民組織活動の社会意義を広げる活動及び政府を始めとした公的機関との連携に関わる。加えて関西の国際協力祭典“ワン・ワールド・フェスティバル”は実行委員会メンバーとして協力した。その他多くの関係団体との繋がりの中で本会の活動の更なる推進と市民活動促進の役割を担った。

(11)調査・研究プログラム

2024年度内の活動は特になく、本会事業の評価資料の作成を次年度公 I 事業の中で実施することとした。

2. 地区活動

本会の活動がより多くの人たちによって支援されていくためには、様々な地区活動が必要で、地区世話人を中心に広報、ぞうすいの会、ウォークソン、コンサート等が企画・実施された。今年は徐々に企画数が増えてきた。現在、1エリア3地区4名、2エリア2地区7名、3エリア3地区11名、4エリア3地区8名、5エリア2地区6名、6エリア3地区5名、7エリア4地区8名、8エリア1地区1名、9エリア2地区2名、10エリア1名の計51名の世話人を中心に各地区で活動が実施された。

また各地区会ごとに組織を整え活動を活発化していくために、地区会長会・世話人会を10月と1月に新入会員歓迎会を4月と10月に開催、特に1月は京都地区会が主となって新年会を兼ねて開催した。

3. 広報

(1)会報誌

会報「アジアネット」を年4回(各4,100～4,300部)発行し、支援者に送付して事業報告と海外情報などを提供した。新規の支援者を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開ス

ペース向けにも送付した。ホームページ上でも広く公開した。

(2) ホームページ・SNS

ホームページでは、年 4 回発行の会報よりも細かな時間スパンでタイムリーに情報を発信した。特に本会のイベント情報やニュース、寄付募集など、発信に迅速性を要する記事を逐次掲載した。フェイスブックやインスタグラムなどの SNS や YouTube によっても、本会の活動状況、ニュースやイベント情報などを、随時発信した。これら不特定多数への情報発信により、新規の会員・寄付者・イベント参加者の獲得にも努めた。

4. プロジェクト支援(支援会・ファミリーグループ)

各支援会、ファミリーグループなど15グループが様々なイベントやチャリティ活動を実施し、本会の支援事業の応援を、精力的に展開した。

5. 関連市民活動

関西ナショナル・トラスト協会が設立趣旨の下、活動が行われた。

B. 環境保全・啓発教育事業

1. 国際グリーンスカウト活動

(1) 「土と水と緑の学校」

第 41 回「土と水と緑の学校」を和歌山県新宮市にて 8 月 5 日～9 日に開催し、参加者 45 名、ジュニアリーダー 5 名、リーダー 8 名、本部ボランティア 64 名、講師 5 名の参加により、自然の大切さを新宮の自然と共に体験し、それぞれの役割を担って集団生活を行った。

(2) 国際グリーンスカウト国内活動

本会が提唱した国際グリーンスカウト(“Clean & Green”の標語の下で、地球環境保全を地域で推進する)活動として、アジア各地のグリーンスカウトメンバーが活動を行っている。地域活動にリンクさせながら活動を実施している。吹田部会は、毎月 1 回例会と糸田川清掃活動を実施し、年間で 48 人が活動し 72.3 キロのゴミを収集した。日本とアジア諸国が共にプラゴミ問題に取り組む “AFS ブルーオーシャンレンジャー” 活動では、11 月 9 日に日本・フィリピン・インドネシア 3 カ国 6 地域の海辺などで、同日にクリーン活動を行った。併せてオンライン交流などを行い、各地域の活動の様子を、国を越えて動画や写真で紹介し啓発し合った。

運営管理

第 13 回定期社員総会を 6 月 8 日に実施した。本年度は 4 回(5 月、9 月、12 月、3 月)の理事会を開催、事業や運営の課題について話し合った。それに伴い、各常置委員会においても、オンラインを併設しながら適宜委員会を開催し、運営管理をおこなった。

・公Ⅰ(開発支援事業)委員会 (委員長 松原 正)

: 5 月、9 月、11 月、2025 年 1 月、2 月、3 月 計 6 回

・公Ⅱ(国際交流)委員会 (委員長 端無 勝)

: 5 月、9 月、11 月、2025 年 1 月、3 月 計 5 回

・公Ⅲ(災害罹災者に対する生活支援事業)委員会 (委員長 宮川 眞一)

: 9 月、12 月、2025 年 1 月 計 3 回

・公Ⅳ(国際協力に対する理解を深め、支援を得るための普及啓発事業)

1. 会員拡大・地域広報活動委員会 6 月以降会員委員会に名称変更(委員長 渡辺治彦)

: 4 月、10 月、11 月、2025 年 1 月 計 4 回

2. 国内行事委員会(委員長 沖田 文明)

: 9 月、12 月、1 月、2 月、3 月 計 5 回

3. 広報企画委員会(委員長 法花 敏郎)

:4月、5月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、2025年1月、2月、3月 計11回

・特別委員会

1 次世代への活動継承検討委員会(委員長 玉城 博和)

:9月、11月、12月、2025年1月、3月、3月 計6回

法人管理部門

総務財務委員会(委員長 上野孝一)

:4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、2025年1月、2月、3月 計11回

- ・当会規程の整備(倫理規程、公益通報者保護に関する規程、利益相反防止に関する規程、リスク管理規程、コンプライアンス規程)

それぞれが今年度も公益法人としての、ガバナンス、コンプライアンスルール強化を行った。

以上を以て、2024 度の活動事業の概要報告とします。

I. 開発支援事業

I. 開発支援事業

I-A. 水事業

1. 井戸・飲料水供給

安全な水を日々の生活で得ることが出来ない、アジアの貧困農村地域へ、井戸や水道パイプラインを設置し、生きるためそして生活を安定させ、地域づくりをしていくために水インフラの整備をおこなった。女性や子ども達を水汲みの重労働から解放し、子ども達の学校出席率の安定や衛生確保にも寄与することをめざした。また、近年は気候変動の為に井戸が枯れること、災害により水脈が変わり水源枯渇すること、地域の産業発展の中で水の質が悪化することなどが増加している。

以上のような改善のために 2024 年度は 5 か国で 65 基の設備を設置することが出来た。

(2025 年 3 月現在)
(パイプライン・貯水タンクを含む)

国 名	2024 年度完成	累 積
インド	4	511
インドネシア	-	45
カンボジア	17	514
スリランカ	12	168
タイ	-	88
中国	-	1
ネパール	16	342
バングラデシュ	4	185
パキスタン	-	8
フィリピン	12	456
ブルキナファソ	-	1
ミャンマー	-	26
ラオス	-	21
合計	65	2,366

●インド

HDSI マハラシュトラ州	2 基
ポンプ式井戸	2 基
アムラワティ県アチャルプール地区カンダリ村 アムラワティ県アムラワティ地区ラージュラ村	
RUDYA マハラシュトラ州	1 基
ポンプ式井戸	1 基
ガッチロリ県ダンノーラ地区ムスカ村	
BSVIA カルナータカ州	1 基
ポンプ式井戸	1 基
カルナータカ州ビジャヤプーラ地区コスモニケタン学園	

●カンボジア

KAFS タケオ州、クラチェ州	17 基
露天式井戸	8 基
タケオ州 トレアン郡クバブ地区ポングロー村 (2)	
〃	ココ村 (2)
〃	タスレン村 (2)
〃	タマダ村 (2)
電動ポンプ式井戸	9 基
クラチェ州 チュロン郡カンボンダムレイ地区ロラック村	
〃	カンボンダムレイチャス村
〃	クロクドンバン村
〃	ブラマー村
〃	バライン村
〃	ブラフオット村 (2)
〃	クロッホ村 (2)

●スリランカ

SARVODAYA 中部州、ウバ州	12 基
露天式井戸	12 基
マータレー県 ラソタ地区 スドゥガワッタ村	
〃	ウクウェラ地区 ウダウエヒガラ村
〃	パレポラ地区 ア克蘭ボダ村
〃	カヤタワッタ地区 ラスニンダ村
〃	ウクウェラ地区 ワリヤボラ村
モナガーラガ県マデウラ地区 マリアルワ村	
〃	ミリシュワルガマ ゴナタララ村
〃	コラデニア村
〃	シヤバランドゥワ地区 ガルカダ ナウガラ村
〃	マユラガマ村
〃	シリプラ アティマレ村
〃	バダルクンブラ地区 アルボタ オシラキラ村

●ネパール

AFS-Nepal バグワティ州	13 基
簡易水道付パイプライン式井戸	7 セット (基)
シンドゥバルチョーク郡インドラワティ農村型自治体 10 区 モラナダダ (7)	
揚水システム	1 基
シンドゥバルチョーク郡インドラワティ農村型自治体 8 区	
簡易水道付パイプライン	5 セット (基)
シンドゥバルチョーク郡インドラワティ農村型自治体 8 区 (5)	
AFS-Nepal ガンダキ・ブラデーシュ (第4) 州	3 基
ポンプ式井戸	3 基
ナワルプル郡カワソティ市 第 13 区ナヤンバスティ、	

I. 開発支援事業

サマベン通り

ナワルプル郡カワソティ市 第13区ゴイリ ナヤンバスティ
ナワルプル郡カワソティ市 第13区ヴェットガットチョーク

●バングラデシュ

BDP ジャマルプル県 3基

ポンプ式深井戸 3基

ボクシゴンズ郡スルジャナガール村

スルジャナガール・ボクシゴンズ BDP 小学校

スリプルユニオン議会ハヤトプル村、ハヤトプル地区

ジャマルプル村 ハヤトプル BDP スクール

ジャマルプル・サダール郡バスチャラユニオン議会

ジョドムルラ村、ジョドムルラ BDP スクール

BDP ネットローナ県 1基

ポンプ式深井戸 1基

バルハッタ郡ライプル ユニオン議会ノアパラ村ノアパラ BDP
小学校

●フィリピン

KALIPI ヌエバエシハ州、パンパンガ州 12基

ポンプ式深井戸 12基

ヌエバエシハ州

カピアオ市 サンフェルナンドスール村 ドュマナス小学校

〃 コンセプション村 ブロック5

〃 サンタイサベル村 ブロック3

リャネラ市 サンフェリペ村 シティオ アルフォンソ幼稚園

〃 カシーレ村 イリガシオン集落

〃 ゴメス村 ブロック2

〃 ブロック3

サンタローザ町 リウェイウェイ村 幼稚園及び診療所

〃 ブロック1

ペニャランダ町 カロス村 グロド1集落

ハエン市 サンパブロ村 ブロック6

パンパンガ州

カンダバ市 マンディリ村 ゾーン2

建設中の井戸 16基

インド 2基

カンボジア 3基

スリランカ 0基

ネパール 8基

バングラデシュ 2基

フィリピン 6基



バングラデシュ 学校に水場が出来て喜ぶ子ども達



インド 掘削して水が出たことを確認できた地域の人たち



カンボジア クラチェ州に寄贈された電動ポンプ式井戸



スリランカ マータレー県ラスニンダ村に完成した井戸

I. 開発支援事業

I-B. 子ども事業

1. 初等教育普及・向上

(1) アジア里親の会

子どもたちの健全な育成に不可欠な教育。子どもたちは教育を受ける権利があり、大人はそのための環境を整えなければなりません。しかし、アジア地域では今なお学校に毎日通えない子どもたちが多くいます。本会では、一人でも多くの子どもが就学し、基礎的教育を受けることができるように、インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピンの子どもたちを里子、日本側支援者は教育里親として教育里親支援を行っています。

近年、就学適正年齢での入学者の向上、女子教育に対する理解は改善されつつあるも経済発展が目覚ましいアジア諸国において貧困格差が更にひろがり、途中退学が増加している。生活を支えるために働くことを選ぶ子ども、選ばせる親が増える。しかし、基礎教育欠如により貧困のサイクルから脱出できないケースが多い為、就学継続により、教えることで、将来を築く力となることへの理解促進や啓発が必要である。

また依然として教材不足、低質な教育内容、教員不足など多様な問題・課題があり、その改善には地域(コミュニティ)を巻き込んだ学校教育の確立を行っていく必要性がある。

本支援では、里子の学費や学用品、彼らが通う教育施設の運営を支援。同時に里親と里子が手紙を通じての相互交流を行った。2024年度は294名の里子を支援し、就学をサポートした。教育里親の存在が里子たちの心の支えになり、学習への意欲向上や将来への希望を見出すことに繋がっている。

アジア里親の会 里親決定状況 (2025年3月現在)

国名	2024年度里子数	里子累計数
インド	114	511
カンボジア	41	260
ネパール	91	306
バングラデシュ	26	284
フィリピン	22	35
合計	294	1,396

●インド

BSVIA 教育支援事業 39名

【カルナータカ州ビジャプーラ県ブルナプール村】

アジア里親の会の支援を通して、日印友好学園コスモニケタンの教職員の給与、教材、制服、文具などの運営の一部を支援した。

SSH 教育支援事業 2名

【タミルナドゥ州ナマカル県】

家庭の事情により学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身がHIVに感染し、差別を受けている子どもたちを対象に、より多くの子が学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支援。加えて子供たちカウニングプログラムを実施しケアを行っている。本年度で支援終了。(累計73名)

RUDYA 教育支援事業 53名

【マハラシュトラ州ガッチリ県パダトラ村】

日印友好学園パダトラ小学校に通う少数民族の子どもたちへの教育支援。遠方からの就学者に対しては、寮にて生活できる体制を作り、通学困難により離学することを防ぎ、就学率の向上を目指している。

AFS-Nagpur 教育支援事業 20名

【マハラシュトラ州ナグプール県】

スラム街の子どもたちが継続的に就学し、教育を受け自立を促すことを目指し、チャイルドアカデミーを開所している。現在70名の子どもたちが活用し、学習補助、絵画コンテストや就学に必要な通学靴、制服、水筒、衛生用品の支援スラム街の子どもたちが継続的な就学、教育を受けられるよう支援を実施。

●カンボジア

KAFS 教育支援事業 41名

【タケオ州】

タケオ州の小学校、中学校、高校の運営支援および、子どもたちへの教材や年一度の校外学習の支援。里子を含めた村の子どもたちを対象とした英語の課外授業の支援。

●ネパール

AFS-Nepal ビトゥリ村 教育支援事業 10名

【ナワルブル郡カワソティ市ビトゥリ村】

ビトゥリ村のスリーサンティ小学校、ラーズラナ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援(継続就学と高校教育修了)と学校運営支援を実施した。

AFS-Nepal ナウリンセカンダリースクール教育支援事業 50名

【カトマンズ郡ブタニルカンタ市チュニケル村】

チュニケル村の自費就学が出来ない貧農民や移住労働者の子どもたちが安心して就学できるように、学費支援と学校運営支援を実施した。

AFS-Nepal インドラワティ 10区 教育支援事業

チャンデスウォリ H.セカンダリースクール 2名

サラソワティ L.セカンダリースクール 15名

スリーパロパカール小学校 5名

ジョロンゲ小学校 1名

【シンドウパルチョーク郡インドラワティ農村自治体10区】

2015年の中部大地震により大きな被害を受け、家屋倒壊により経済状況が悪化した世帯や親を亡くした子どもたちの就学支援を引きつづき実施。高等学校卒業まで就学できるよう学費支援と学校運営支援を行った。

AFS-Nepal バクタプール 教育支援事業

クリエイティブ イングリッシュ セカンダリースクール 8名

【バクタプール郡バクタプール市】

2015年の大地震およびコロナにより経済状況が困難になった世帯の学生たちが就学を継続でき、10年生(中等教育終了学年)を

I. 開発支援事業

修了し高等教育に進学するまでの支援を行った。

●バングラデシュ

BDP 教育支援事業 26名
【ネトロコーナ県】

規程の小学教育を受けられない地域の子どもたちを対象に、中学以上の就学を推進すると同時に、高等学校入学・卒業をめざした支援。特にバングラデシュでは、中等教育以降の就学費は個人負担額が多くなるため、就学率が下がる。就学意欲のある子どもが継続的に就学できるよう支援を行うと同時に、教育向上を目指し補習の受講支援を実施した。

モハムニ孤児院 教育支援事業 1名
【チッタゴン】

少数民族(仏教徒やヒンズー教徒)の子供で、親が死亡するなどにより一緒に暮らすことが出来ない経済状況の家庭の子供たちが暮らしている母子寮の子ども達の就学支援。

●フィリピン

ASI 教育支援事業 22名
【カビテ州ダスマリネス町バリパラン】
【マニラ市マラテ町サン・アンドレス】

マニラ市郊外のダスマリネス町バリパランに強制移住させられた家族の子どもたちと、彼らの元居住地であった国鉄線路沿いの地区、サン・アンドレスにて移住先のない家族の子どもたちが、継続就学できるように、授業料、教科書、教材、学校補習等を支援した。内1名は大学就学支援により社会自立目指した支援を行っている。

2. 教育設備・環境整備

(1) 学校建設

(2025 年 3 月現在)

国名	2024 年度建設数	校舎棟累計数
インド	-	24
インドネシア	-	2
カンボジア	-	42
タイ	-	10
中国	-	1
ネパール	1	※45
パキスタン	-	2
ラオス	-	2
フィリピン	-	8
ベトナム	-	3
合計	1	139

※学校及び研修施設、コミュニティホール数を含む

●ネパール

AFS-Nepal 小中学校増設及び設備支援 1棟
【ガンダキ州ナワルプル郡】

ガンダキ州ナワルプル郡カワソティ市スリーサント小学校の老朽化した校舎建設を昨年度より実施し、完成。2 教室にテーブル、

椅子、白板、ロッカー、教卓等の整備を行い学校側に譲渡した。3 月 30 日に完成式及び譲渡式を支援者の参加の下実施。

【バグワティ州シンドウパルチョーク郡】

山間地インドラワティ村 7 区パールバリカ小中学校の外壁がなく児童生徒の安全が確保できず校庭でボール遊びが出来なかったため、外壁フェンスの設置を京都暁星高校ワークキャンプにて学生たちと共に設置した。

●バングラデシュ

BDP 小学校トイレ整備支援
【ネトロコーナ県、ジャマルプール県】

現地 NGO の BDP が運営する小学校 5 校のトイレ整備を予定していたが、現地で発生した洪水支援を優先することとなり事業実施が出来なかった。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

●インド

SSH HIV/AIDS 支援 2 世帯
【タミルナードゥ州ディンディガル県・ナマカル県】

家族の一員が HIV/AIDS に感染し、安定した生活を送ることができず、子どもへの教育継続のままならない世帯に対して、栄養食の配布、抗 HIV/AIDS ウィルス薬の定期接種、HIV/AIDS に感染しながら生活するためのトレーニング、マイクロクレジットを支援している。今年度は、タミルナードゥ州ナマカル県、ディンディガル県の農村 2 世帯を支援。本事業をインド現地の NGO が集中的に支援することとなり、今年度で本会の役割が終了した。

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援

●ネパール

AFS-Nepal 栄養改善支援事業 小学校給食 1校
【ガンダキ州ナワルプル郡カワソティ市ピトゥリ村】

小学校での給食支援。子どもたちの健全な成長のため、通常給食でも、日常の食事に不足しているタンパク質を摂食するため、週 1 回の卵と牛乳の給食をスリーサント小学校の 155 名にサポートした。本サポートは 30 年間継続的に行っているが、卵と牛乳以外は学校及び行政資金で実施している。貧困層の子どもたちが移住してくる中その子供たちに栄養不良状態が見られ、そのような子どもたちがタンパク質を補え、健康維持の一助につながっている。

AFS-Nepal 栄養改善支援事業 栄養士育成 3名
【日本】

農村地域の栄養を改善するための栄養指導者となる栄養士育成対象者 3 名を招聘し、この 3 名の留学生活の費用支援を引き続きおこなった。2 名は 2022 年 4 月より 2 年間日本語力習得し、2024 年 4 月より京都栄養医療専門学校で栄養士コースにて本格的な栄養学習を実施、1 年目の課程を修了した。他 1 名は 2023 年 4 月よ

I. 開発支援事業

り甲子園大学大学院栄養科博士課程に入学し、ネパールの風土病と成人病の関係性について来年度博士論文としてまとめる予定で研究を進めている。

(京都西南ロータリークラブとの共同事業)

AFS-Nepal 栄養改善支援事業 食生活改善活動

【バグマティ州シンドウパルチョーク郡インドラワティ村 10 区 8 区／ガンダキ州ナワルブル郡カワソティ市.ピトゥリ村】

ネパールの栄養課題への取り組みを実施できる現地栄養学科学士の栄養専門家育成と、農村地域にて栄養改善と健康維持の普及にキッチンカーを用いて実践する活動の 2 年目を実施。現地のトリブヴァン大学栄養学科と共同で 2 カ村の乳児～高齢者を 5 グループに分けて巡回栄養教室と栄養バランスの考慮した調理実践により本プログラムへの関心を促す活動を 2 地区にて 550 名および現地行政関係者を対象に 6 回のプログラムを実施した。また、同 2 カ村にて 10 名の食事改善普及員の養成をおこなうことを同時に目指しており巡回においての講習以外に 3 日間の集中講習会をカトマンズで実施し、9 名が第 1 回集中講義を修了した。また、8 区の児童たちは給食のために自宅より食器を持参しているため手づくりの給食袋を支援した。(味の素ファンデーション助成事業)

●フィリピン

ASI ストリートチルドレン支援

【マニラ市マラテ町サン・アンドレス】

マニラ市サン・アンドレスのバランガイ 803 と 807 において、廃材でつくられた家で生活を送る世帯、また限られたスペースに複数の世帯で暮らす、安定した経済状況を送ることが厳しい家庭の子ども達 96 名に対して、継続した教育が受けられるよう、支援を実施。子ども達への学用品等の支援及び補習授業、衛生・環境教育、リーダーシップトレーニング、保護者の意識を変えるオリエンテーション等を実施した。孤立や不安に悩まされず、希望をもって生活を改善し勉強や物事に取り組めるよう活動した。支援を受けた子ども達の中には優秀な成績を収め、より高等教育を受けるための機会を得る生徒も現れ、子ども達に良い影響を与えている。



カンボジア 里子へ就学に必要な文具や教材の配布支援



インド パダトラ小学校 年に1度の校外学習に大喜びの子ども達



ネパール 栄養改善指導で栄養価の高い料理を食する子ども



フィリピン JAFS 奨学支援で大学を卒業したマリーアン（左 3 人目）とパリパラン移住エリアの里子たち

I. 開発支援事業

I-C. 貧困対策事業

1. 地域産業づくり・能力開発

(1) 小規模産業育成支援

●スリランカ

SARVODAYA 女性エンパワーメントプロジェクト

【ウバ州バンドゥワラ県

ライディーマリヤダ地区、カンダケティア地区】

内戦やコロナ、経済危機によって深刻な貧困状況にある女性世帯主(40名)へのワークショップ開催や職業訓練後、より具体的な事業開始の準備ができた女性世帯主(20名)に、事業開始に必要な機器材の支援を実施。養鶏(14名)、酪農(1名)、裁縫(4名)、ドライフード製造(1名)を新たな仕事とし取り組むこととなった。円滑に事業が進められるよう、継続したフォローアップとサポート体制の構築をおこなった。

脆弱な女性世帯主の能力開発と収入の確保の一步を踏み出すことができた。また、収入が得られ規則正しい生活を送ることにより、子ども達の栄養と教育環境の改善につながっている。

女性の社会的・経済的地位の向上を目指し、自分の意見を伝え対等に交渉を開始、貧困の連鎖を断ち切る一步を踏み出すことができた。地域の協力関係が強固になり、女性組合設立に向けて、話し合いがおこなわれた。女性が尊厳を取り戻し、経験を積むことで、地域経済の活性化と労働市場での平等な権利と機会の創出につなげていく。 ((公財)森村豊明会の助成事業)

●ネパール

AFS-Nepal 小規模産業育成(小農家自立支援)

【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ農村自治体10区】

農業の自立促進及び農業による収入向上に向けて家畜養育を行い農業モデル農園として地域の人たちへ基本的知識講習会を実施。5世帯が養豚や養ヤギにより収入向上をめざした。また、馬を活用して区内及び近隣区の住民へ広めていくための見学会を実施した。

AFS-Nepal 小規模産業育成(人材育成支援)

【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ農村自治体10区】

貧農地域が地域の環境を守りつつ収入につながる農業を実施でき、人々の暮らしが安定した持続可能な地域づくりを目指して農業の指導者育成支援を実施。地域の農業指導者となる青年1名の農業専修学校への授業料サポートを実施した(6年間コースの5年目)。先だって、モデル農園づくりをし、馬、ヤギ、豚の育成を取り入れた自然農法循環型農業、コーヒー農家の拡大、コーヒー農園にショウガなどの野菜混植によるコーヒー育成中の収入確保事例紹介を具体的にを行い、現地農民に示しながら知識の共有をおこなっている。

●フィリピン

AFS-Sorsogon, UMD 漁民と農民への小規模産業育成支援

【ソルソゴン州マトノグ町、サンタ・マグラナ町】

沿岸地域の養殖開発や薪伐採のために失われたマングロー

ブの森を再生するために植林した木々のメンテナンスや苗床づくりを継続しておこなった。木々が大きく生育し、カニやエビ、ウニ、なまこ、魚、鳥類等、多様性に富んだ生物も育ってきたことから、漁業を生業とする村人たちが環境への意識を高め、積極的に活動を推進した。また、収入が得られる農業をおこなえるよう、有機肥料による土壌改良や多種多様な苗木を植え、養殖池や青少年達の実地研修もできる農園を活用し、村人たちが以前よりも多くの収穫物も得られるようになった。さらに、コナツツヴァージンオイル等、新たに生活の糧となる商品の開発と販路の開拓をおこなった。

AFS-Pandan 障がい者支援

【アンティーク州パナイ島パンダン町】

パンダン障がい者協会のメンバーが中心となり、定期的な通院や福祉機器の運搬協力、医薬品と食料を購入時に割引を受けられる障がい者IDカードの発行を継続。学校を卒業した障がい児童の自立を目指し設立した、ブリック作業所は行政や地域との連携をさらに強め、自立した運営ができるようになった。

2. 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

(2025年3月現在)

国名	2024年度完成	累積
インド	-	1,205
カンボジア	-	4
バングラデシュ	-	285
パキスタン	-	6
ネパール	-	1,084
タイ	-	9
ラオス	-	1
フィリピン	-	1
合計	0	2,595

2024年度のトイレ設置はなかった。

(2) 医療支援

●インド

RUDYA ムスカ村住民のための保健プロジェクト

【ガッチロリ県ダンノーラ地区ムスカ村】

2017年11月に開設したムスカ村の病院(診療所)が、現地で運営、管理できるよう、新規に病院建設を実施中。2025年8月完成予定。

●ネパール

AFS-Nepal 女性保健向上支援事業

【バグマティ県シンドゥパルチョーク郡インドラワティ農村型自治

I. 開発支援事業

体10区】

山間農村の保健、衛生向上のため特に婦人科の充実の為の支援と不十分は女性の性教育と衛生用品のサポートとして布ナプキンの普及を20名に行った。現地の女性たちが縫いやすい形への改良を日本よりサポート。女子生徒の保健向上に役立てられている。

2. 提携 NGO 運営助成

本会の国際事業の柱の一つとして、国際ネットワークAFSの各国部会(NGO)の活動の強化は必須である。しかし、発展途上国では NGO の自己資金調達が困難であり助成を必要としている。自立運営を目指して、以下の各団体の運営に協力した。運営費及びプログラム経費を一部補助。

RUDYA(インド)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費も本会で負担。



スリランカ 新しいミシンの支援により商品の製造に励む女性



ネパール コーヒー農家拡大のための地域農民への苗木支援



フィリピン 女性達が収入を得るためのココナッツオイル作り講習



フィリピン 障がい者の自立を支えるエコブリック作業所



インド ムスカ村で建設が進む新病院

I. 開発支援事業

I-D. 環境事業

1. 植林・水源涵養林養育

地球全体で脱炭素社会を目指す中、森林減少に伴う温暖効果ガス排出量は世界全体の排出量の2割を占める。植林は大気浄化という大きな役割と共に、安全な水の供給のための水資源の確保にも重要であり、地域づくりにおいても森林地面積がキーになる。森林減少が農作物の収穫量の減少へ連鎖し、それは、更なる環境汚染や貧困への要因にもつながる。これらを防ぐために、また、災害からの回復力強化や防災のためにも植林活動を推進している。同時に地域資源を活かしながら、自然環境が自らの地域社会にもたらす影響を教育や啓発活動を通して学び、自然を守る心を育て、環境保全を実践していく活動を行った。

(1) 植林

(2025年3月現在)

国名	2024年度植林	累積
インド	-	712,405
インドネシア		213,520
カンボジア	-	18,000
スリランカ	600	2,235
タイ	-	20,500
中国	-	1,105,525
ネパール	2,450	314,877
パキスタン	-	4,560
フィリピン	2,000	175,001
バングラデシュ	4,000	40,825
	9,050	2,607,448

●ネパール

AFS-Nepal コミュニティ フォレスト 2,450本
【バグマティ県シンドゥパルチョーク郡インドラワティ農村型自治体10区、9区】

地域の緑化と収入をバランスよく行えることを目指しコーヒー栽培を実施。モデルファームにコーヒーの育成の為に必要な日陰樹としてマメ科の高木を750本、コーヒーの木を1700本と同時にコーヒー苗の育苗を10,000株実施した。また、実施をはじめた10区より9区、3区と1区、7区、2区、11区、12区の農民がそれぞれの地域でコーヒー植樹を行い、広がりを見せている。

6月には、日本のコーヒー専門家 三本木一夫氏による講習会を開催し、農民のコーヒー植樹後の点検やコーヒー収穫に向けた害虫に関する注意点などによる講習を行った。

(令和5年度及び平成6年度緑の募金公募事業)

●バングラデシュ

BDP 学校を中心とした植林活動 4,000本
【ガジプール県・ネトロコーナ県】

BDPが運営するノンフォーマル教育の小学校の子どもたちが、地域の環境を守る意識づくりを行うため、各学校にて植林活動と環境教育を実施した。3エリアの計生徒及び地域の自助グループ計2,000名に対し、マンゴーとパパイヤの木計4,000本を配布し、学校周辺や各家庭に植樹をした。また、生徒たちへ環境教育も合わせて実施した。今後の環境活動展開へ活かしていく。

(2024年度連合愛のカンパ 中央助成事業)

●フィリピン

AFS-Pandan パンダン植林 2,000本
【アンティーク州バナイ島パンダン町】

マロンパティの水源地を守る森を保全するために、水道局と地域の学校が中心となって、苗木作りや定期的な草刈り等、森のメンテナンスを実施。今年度は特に連続大型台風の襲来により、土砂崩れ等も被害も各地で度々あり、住民が互いに協力し、継続した森づくりに取り組んだ。また、グリーンスカウトメンバーが中心になり、地域の学校に呼びかけ、子ども達の環境教育と山・森・川・海をつなげて守るための活動をおこなった。

●スリランカ

SARVODAYA コミュニティフォレスト 600本
【マータレー県5ヵ村、モナガーラガ県7ヵ村】

井戸を寄贈した村々の水源地と地域の環境を保全し、収入につながる果樹を含むクンプクやミー等600本の植林をおこなった。同時に地球の環境保全や地域の生態系、水の保全、植林する木の特徴や育て方等についてのセミナーを実施。村全体で協力して井戸と緑を守る、災害に強い地域作りのための青少年を中心とした体制作りをおこなった。

2. 環境改善・国際グリーンスカウト

国際グリーンスカウト(GS)運動とは「Think Globally, Act Locally (地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全」に取り組む市民活動である。1986年に本会が提唱。アジアにおける「理解と協力と連帯」の輪を広げる実践活動の一環として、AFSの海外ネットワークを通じて16ヵ国にて展開した。アジア各国に草の根市民による環境保全活動を広げることが目的としている。今年度は4ヵ国で実施した。

●ネパール

AFS-Nepal ゴミ分別活動ゴミ収集場所の設置 7基
【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ農村型自治体】

身のまわりの環境の変化が激しい中、地域環境保全のために環境ジュニアリーダー育成を実施してきた。地域全体への活動展開及び住民全員が環境保全の意識をもち持続的な地域づくりを行うために、村内に設置している7つの防災センターにゴミの処理を行うためのゴミ収集を各1カ所設置した。

I. 開発支援事業

AFS -Nepal グリーンスカウト ローカル GS 組織づくり

【カトマンズ郡ブタニルカンタ N.P.チュニケル村、 ナワルバラシ郡カワソティ N.P.ピトゥリ村】

村の青少年を中心としたローカル GS づくりを奨励。環境改善に向けての方法を考え、行動できるように促している。ピトゥリ村 GS は、地域の子どもたちがスリーサティ小学校、ラズマンディル小学校、ピトゥリ小学校の 3 つの学校を中心に環境美化推進運動および植林活動、河川清掃を実施。最近では住居周辺道の清掃活動は定着した。チュニケル村 GS は、ナウリンセカンダリースクールの里子たちがその役割を担い地域清掃や道路清掃、学校の美化環境保全活動、近隣の山への定期的な植林活動を実施して、環境保全活動を積極的に実施している。

●フィリピン

AFS-Pandan、AFS-Antique グリーンスカウト運動

【アンティーケ州パナイ島 パンダン町、シバロン市他】

6 月に環境保全のための青少年サマーキャンプが 7～20 歳の 41 名が参加のもとアーボリータム自然公園で開催。参加者は、環境をテーマに創作作品で表現し、地域の生物多様性を学び、環境保全に取り組む個人決意表明と共に、楽器演奏、朗読、壁画、美術作品の展示、演劇などのグループ独自の方法で、プログラムを通じて学習した知識や行動、自然環境保全の意識を発表。未来を担う青少年が持続可能な未来を創っていくために必要なスキル・創造性・リーダーシップの育成をおこなった。

3 月にパンダン町マガバ小学校で小・中学生対象に地域の野生動物や環境について学ぶプログラムを開催。約 300 人の児童が参加し、自分たちのこれからの活動について話し合った。

●フィリピン

AFS-Sorsogon グリーンスカウト運動・地域環境改善事業

【ソルソゴン州マトノグ町、サンタ・マグラレナ町】

農地やマングローブ林、水環境の汚染等、地域の水環境の悪化によっておきる貧困を改善していくために、住民主体のごみ管理に取り組んだ。カマチレス村の堆肥化及び育苗センターで、ごみの分別や堆肥化・苗木作りのセミナーを 51 回開催し、628 名が参加した。また、クリーンアップイベントを 16 回開催し、624 人参加があり、地域のごみ約 20t を回収した。さらに、学校や幼稚園と連携し、CLAGO (来た時よりも美しき、行くところすべてきれいに) を新たな拠点 34 ヶ所で 1,694 名に指導し、実践と習慣化の促進と地球と地域の環境教育をおこなった。各拠点の活動環境を整えるために必要とされる、トイレ、水タンクや手洗い場所の設置に協力した。

リサイクルできる素材からアップサイクルへの取組みも継続、デイケアセンターの教材等に有効活用されている。ココナッツを集め、ヴァージンオイルの生産・販売を始め、各家庭の収入につながった。

住民間での情報交換と相互啓発を目的に、SNS グループを活動毎に作り活用。学校の校庭や各家庭では、野菜や果樹の木も多く育ち、家族で食べられることで、栄養改善や経済的負担の軽減、生活の安心感につながっている。

※第 19 回 TOTO 水環境基金の助成を受け実施。

●スリランカ

SARVODAYA グリーンスカウト運動

【スリランカ全土】

井戸を建設した村や学校を拠点として、環境保全活動について学び、実践する取り組みを進めた。スリランカの生物多様性を持続可能なものにするために、各村でユースリーダーを育成、地球と地

域の環境保全に意識を向け、行動していく活動の輪を拡げた。

●インドネシア

AFS-Dhyana Pura University グリーンスカウト運動

【バリ州】

デンパサール市の大学生が、海岸マングローブ林で、海洋プラスチック汚染の原因となるプラごみを回収するクリーン活動を実施した。またタバナン県の小学生が、地域住民とともに山村でクリーン活動を行い、環境保全の意識を高め合った。スタディツアーで訪れた日本人ボランティアもマングローブ植林やクリーン活動に参画し、また小学生に対して環境紙芝居を用いてポイ捨てしないよう啓発した。

3. 再生可能エネルギー資源活用・普及

●ネパール

AFS- Nepal バイオガスプラント設置及び普及事業

本年度は資金の関係で、本事業の実施が出来なかった。



バングラデシュ マンゴーの木の植林に出発する子ども達



インドネシア バリ島 日本人学生と現地の人とのビーチクリーン

I. 開発支援事業

I-E. ワークキャンプ・視察

1. ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて、本会の海外プロジェクトを支援すると共に現地での共同(協働)作業により現地理解と文化交流の機会とし、また各活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指してアジア各地で実施している。

2024年度は、JAFS 主催キャンプの実施はせず、関係団体・学校より受託ワークキャンプの実施を下記の通り2カ国で6回行った。

1. 第55回イオン労連カンボジアワーキングキャンプ

期 間:2024年5月15日(水)～20日(月)
場 所:タケオ州トリアン郡クババ地区ポングロー村
参加者:25名
内 容:寄贈井戸訪問、井戸建設、村人との交流 等

2. マックスバリュ西日本労働組合カンボジアワーキングキャンプ

期 間:2024年6月10日(月)～14日(金)
場 所:タケオ州トリアン郡クババ地区ココ村
参加者:18名
内 容:寄贈井戸訪問、井戸建設、村人との交流 等

3. 第56回イオン労連カンボジアワーキングキャンプ

期 間:2024年6月20日(木)～25日(火)
場 所:タケオ州トリアン郡クババ地区タスレン村
参加者:33名
内 容:寄贈井戸訪問、井戸建設、村人との交流 等

4. 4単組合同カンボジアワーキングキャンプ

期 間:2024年7月8日(月)～13日(土)
場 所:タケオ州トリアン郡クババ地区タマダ村
参加者:21名
内 容:寄贈井戸訪問、井戸建設、村人との交流 等

5. かねでん NGO ネットワーク ネパール植林ワークキャンプ

期 間:2024年7月19日～26日
場 所:シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村10区
参加者:12名
内 容:植林活動、コーヒー植樹、学校での交流活動 等

6. 第5回京都暁星高等学校ネパールワーキングキャンプ

期 間:2024年9月17日～24日
場 所:シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村10区
参加者:9名
内 容:水道パイプライン敷設活動、コーヒー植樹、小学校フェンス設置ペンキ塗り、寄贈井戸視察、学校への文具寄贈および生徒との交流、世界遺産視察 等

2. 海外プロジェクト視察

事業の確認調整等のために6カ国19回の視察および視察ツアー、指導プログラムを実施した。

1. ネパール 支援事業完成設備竣工式及び譲渡式

期 間:2024年4月20日(土)～5月4日(土)
場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ10区
派遣者:篠原勝弘会長(4/21～4/26)、渡辺治彦理事(4/22～4/30)、松原正理事、熱田典子
内 容:インドラワティ農村型自治体に完成した防災センターの竣工式と譲渡式(在ネパール日本大使出席)
(R4年度及びR5年度日本 NGO 連携無償資金協力関係)

2. ネパール 支援事業

期 間:2024年4月22日(月)～4月3日(水)
場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ9区、10区
派遣者:天野 紀
内 容:インドラワティ農村型自治体に完成した防災事業講習会及び研修実施
(R5年度日本 NGO 連携無償資金協力関係)

3. ネパール 支援事業

期 間:2024年5月26日(月)～6月6日(木)
場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ10区
派遣者:天野 紀
内 容:インドラワティ農村型自治体に完成した防災事業講習会及び研修実施
(R5年度日本 NGO 連携無償資金協力関係)

4. ネパール 支援事業実施のための講習

期 間:2024年6月11日(火)～6月17日(火)
場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ農村型自治体10区、9区、7区
派遣者:三本木一夫(コーヒー栽培専門家)
内 容:シンドゥパルチョーク郡の農村型自治体の特産品づくりと環境改善のための実施しているコーヒー植樹とコーヒー育成のための講習会実施(緑の募金 助成事業)。

5. ネパール 支援事業視察

期 間:2024年8月8日(木)～8月20日(火)
場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ農村自治体
派遣者:熱田典子
内 容:シンドゥパルチョーク郡の農村型自治体における防災力強化事業 業況確認及び事業調整
(R5年度日本 NGO 連携無償資金協力関係)

6. スリランカ 事業視察

期 間:2024年9月2日(月)～7日(土)
場 所:キャンディ県、マータレー県、バンドゥッラ県、モラワ市
派遣者:岡本真理子、岡本佳子
内 容:完成井戸訪問、女性のエンパワーメントプロジェクト・モニタリング、村人とのミーティング・交流等

7. スリランカ ネットワーク事業開催及び事業視察

期 間:2024年10月17日(木)～10月21日(月)
場 所:サルボダヤ研修センター
派遣者:熱田典子、柿島 裕、他インターン生2名、参加者1名
内 容:ネットワークセミナー開催、Dr. アリヤラトネ氏記念会出席、サルボダヤの施設及び事業見学

I. 開発支援事業

8. ネパール 支援事業視察ツアー

期 間:2024年10月25日(金)～10月31日(木)
場 所:支援井戸完成視察、学校や村での交流 等
派遣者:尼崎井戸の会(代表 天野澄子)他 4名
内 容:井戸支援完成視察、

9. ネパール 支援事業視察

期 間:2024年10月25日(金)～11月4日(月)
場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ農村自治体
派遣者:熱田典子
内 容:井戸支援完成視察、栄養事業講習

10. バングラデシュ 支援事業視察

期 間:2024年11月17日(土)～11月23日(土)
場 所:ダッカおよびアカリ県ノアカリ市
派遣者:熱田典子、川本裕子、渡辺治彦理事
内容:事業支援視察、提携団体活動地視察

11. ネパール 支援事業実施及び視察

期 間:2024年11月16日(水)～11月 日(金)
場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ農村自治体
派遣者:天野 紀、田中里菜、高木麻衣
内 容:シンドゥパルチョーク郡の農村型自治体における防災力強化
事業 事業(講習)実施
(R5年度日本 NGO 連携無償資金協力関係)

12. ネパール 支援事業実施及び視察

期 間:2024年11月23日(水)～11月27日(金)
場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ農村自治体
派遣者:熱田典子
内 容:シンドゥパルチョーク郡の農村型自治体における防災力強化
事業 事業(講習)実施確認及び事業調整
(R5年度日本 NGO 連携無償資金協力関係)

13. ネパール 支援事業実施及び視察

期 間:2024年12月22日(土)～2025年1月5日(日)
場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ農村自治体
派遣者:熱田典子
内 容:シンドゥパルチョーク郡の農村型自治体における防災力強化
事業 業況確認及び事業調整、次事業調査
(R5年度日本 NGO 連携無償資金協力関係)

14. カンボジア 支援事業視察

期 間:2025年2月5日(水)～10日(月)
場 所:タケオ州トリアン郡ロネアム地区トラペアンクレイ村、
クローン・トヴェア村、プノンペン、
クラチェ州チュロン郡カンボンダムレイ地区7ヶ村
派遣者:花巻北ロータリークラブ 9名、川合千代子、岡本佳子
内 容:寄贈完成井戸及び建設予定地訪問、村人との交流、
井戸メンテナンス指導等

15. タイ ネットワーク会議

期 間:2025年2月5日(水)～10日(月)
場 所:バンコク
派遣者:村上公彦相談役、熱田典子
内 容:タイにおける大学との AFS ネットワーク連携と、ネットワーク会
議

16. ネパール 海外事務所運営調査

期 間:2025年2月11日(火)～2月14日(金)
場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ農村自治体
派遣者:市川 晃、松原 正理事、熱田典子
内 容:ネパール事務所運営状況調査(内部監査)

17. ネパール 支援事業実施及び視察

期 間:2025年3月21日(土)～4月8日(木)
場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ農村自治体
派遣者:熱田典子
内 容:味の素ファンデーション助成事業視察、

18. フィリピン 事業視察

期 間:2025年3月24日(月)～30日(日)
場 所:マニラ、カタンダアウネス州パロンバネス島、
ソルソゴン州マトノグ町
派遣者:岡本佳子
内 容:台風被災地復興支援活動相談、村人との交流、
地域環境改善活動、環境教育 CLAYGO 成果発表会参加、
マングローブ植林地訪問等

19. ネパール 支援事業実施及び視察

期 間:2025年3月28日(金)～4月4日(金)
場 所:カトマンズ、シンドパルチョーク郡インドラワティ農村自治体
派遣者:富田林地区会(沖田 理事、沖田弘子、置田義男、岡本、
古川)
内 容:寄贈小学校校舎完成式典出席、既学校支援事業地視察、世界
遺産及び自然環境保護エリア視察、現地メンバーとの交流



かんでん NGO ネットワークきょうと ネパールで植林ワークを実施



第56回イオン労連カンボジアワーキングキャンプで完成した井戸

I. 開発支援事業



ネパール 土地なし農民の住居エリアに井戸が出来喜び住民たち



フィリピン 安全な水を飲めるようになって喜ぶ子ども



カンボジア 花巻北ロータリークラブ井戸完成式典に集まった多くの村人



フィリピン 劇で環境保全の大切さを発表するパンダンの子どもたち



バングラデシュ BDP が運営するスラム街の小学校視察訪問



スリランカ マーターレー県にて水を呼ぶ木を井戸の周りに植林



ネパール 食事改善普及員育成講習で手計りを習う村の候補生

Ⅱ．国際交流事業

Ⅱ．国際交流事業

Ⅱ－A．人材交流・育成事業

1．奨学金支援

各自の専門職を通して、将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与するとみなされる若手の人材育成資金（奨学金等）を支援した。

●フィリピン

ASI マニラ 1名

2024年度は、フィリピンのアジア社会科学院（ASI）にて行われている夏期の地域開発コース（2ヶ月間）に下記1名を派遣した。参加者は、所属する本会の現地提携団体の推薦と今後の活躍を期待され、このコースに参加が認可された。

- アスタ パルサカデ（インド、SPARSH）

このコース終了後、アスタはコミュニティ主導のプロジェクト設計を村人と共に実践している。

2．海外ボランティア研修制度

アジア諸国との国際協力・理解と、市民レベルでの草の根ネットワークを広げていくことを目指し、海外経験を通して幅広い人材育成を行う制度として2000年より実施。

2024年度は、国際会議の経験を若い世代に経験してもらい、同世代のネットワーク構築を行ってもらうことを目指し、アジアネットワークセミナーへのインターンシップ生として2名が研修した。

Ⅱ－B．ネットワーク推進事業

1．国際会議

（1）アジア国際ネットワークセミナー

アジア国際ネットワークセミナーは、「貧困なき一つたるアジア共同体を目指して～アジアに理解と協力と連帯の輪をひろげよう～」をテーマに1991年より毎年開催している。コロナ感染の影響で2022年度まで3年中止した。昨年度は、本セミナーの再開に向けてAFSネットワークの将来に向けてのあり方を含めネットワーク運営をどのように行っていくかについて昨年10月にAFS国際ネットワーク会議が実施され、今年度4年ぶりにアジア国際ネットワークセミナーがスリランカで実施された。

第30回アジア国際ネットワークセミナー

〈日時〉2024年10月18日～23日

〈会場〉スリランカ・パンドラガマ サルボダヤ高等教育機関

（Sarvodaya Institute of Higher Learning）

モラトゥワ サルボダヤ本部（Sarvodaya Headquarters）

〈メインテーマ〉気候変動と貧困層の生活への影響

〈サブテーマ〉AFSネットワークの今後のあり方

〈参加国および人数〉フィリピン（12）、インド（9）、インドネシア（7）、スリランカ（6）、カンボジア（2）、フィリピン（4）、スリランカ（6）、タイ（5）、ネパール（5）、日本（5）、パキスタン（1）、シンガポール（1）

9ヶ国50名＋スリランカ・ホスト27名 合計77名

〈内ユースメンバー：21名（内訳：ユースリーダー6名、ユースコーディネーター2名、ユースイベントコーディネーター1名、一般ユースメンバー12名）

〈目的〉

・地域社会における社会的・経済的・環境的課題に若者が積極的に

取り組むことを促進する

・国境を越えた知識共有・文化交流・共同プロジェクトを通じて協力関係を強化する

・加盟国間における長期的なパートナーシップ構築のためのネットワークを形成する

・AFS各支部の活動報告と今後の方針を共有し、連携を深める
気候変動とその影響に対する意識を高める

・サルボダヤ運動と、故 A.T. アリヤラトネ博士のスリランカにおける功績を学ぶ

・2025年に向けたAFSの行動計画を策定し、人道的かつ貧困のないアジアの実現を目指す

〈主な内容〉

基調講演：災害時のNGOの果たすべき役割（東日本大震災の事例から）他

グループ討議：気候変動リスクにネットワークとしてどう取り組むか

①災害が発生しても元より良い状態を目指す。

②復興と経済発展を兼ねた対策を遂行する。

③支援活動ワークキャンプなどツーリズムを併せて復興へ導く。

AFSネットワークの今後のあり方

AFS全体で今後の方向性を議論し組織的に運営するため、新たにAFS会長、会計、事務局員6名を選出し、今後の運営方針、方策を決めていくことになった。またAFSネットワーク会費100US\$/年により正メンバーとするが決定した。

〈宣言及び決定事項〉

本セミナーにおける我々の宣言は以下の通りです。

1. 防災：発展途上国は、日本の「斜面工事」などの災害対策から学ぶことができます。土砂災害を防ぎ、住民たちは果樹栽培などで収入を得ることで地域経済を活性化します。

2. 若者と地域コミュニティの関わり：セミナーでは、森林のコミュニティ管理やアグロフォレストリーなどの取り組みを通じて、環境保全

Ⅱ．国際交流事業

に若者を巻き込むことが重要であると強調されました。アグロフォレストリーは、土壌、水、空気の質を向上させる持続可能な土地管理手法です。

3. 国別の問題: 共通の課題として、人口増加、気候変動関連の災害増加、森林伐採、廃棄物管理の問題が挙げられました。提案された解決策には、アグロフォレストリー、土砂災害防止のための斜面工事、コミュニティガーデンや森林創生などがありました。

4. AFS 支部プロジェクト: 各国の AFS 支部が影響力のあったプロジェクトを共有しました。

- ・インド: 部族コミュニティへのグリーンスカウティングと職業教育プログラム。
- ・スリランカ - 水へのアクセス、女性のエンパワーメント、農業。
- ・パキスタン - 飢餓撲滅、教育改善、環境保護のための取り組み。
- ・ネパール - 災害リスクの軽減と脆弱な子どもたちへの教育の優先。
- ・タイ - 大学との共同教育訓練による農業促進。
- ・フィリピンとインドネシア - 若者主導の環境および災害対応の取り組みを重視。

AINS スリランカ 2024 に参加した各国提携団体の代表者からの提案に基づき、AFS が来年までに追求する優先プロジェクトおよび活動は以下の通りです。

A. 資金調達

1. すべての AFS 提携団体は、AINS や AYS などの AFS 活動の継続に向けた資金調達の必要性を理解します。
2. すべての AFS 提携団体は、必要なリソースを見つけ、アジア諸国全体の人々の生活を向上させるための共同基金を作り協働します。

B. 国際的なコミュニケーションの促進

1. 各 AFS 提携団体はすべての団体に関する情報の重要性を認識し、ネットワーク内のすべての活動詳細を含むウェブページ作成のために協力し、世界中の誰もが AFS によりもたらされるインパクトを理解できるようにします。
2. AFS ネットワーク内の各提携団体は、内部コミュニケーションを改善し AFS 内でポジティブな環境を創出するために協働し、互いの状況とニーズを支え合います。

C. 新しい開発分野に注力

1. AFS ネットワーク提携団体は、社会奉仕分野が成長していく新たな分野(現在取り組んでいる分野以外)の発見に取り組みます。
2. AFS ネットワークは、観光やアグロフォレストリーなど新たな優先分野に焦点を当てます。

D. 10 月 10 日をグリーンスカウトデーとする

1. 相互扶助の精神と助けを必要とする人々に対するボランティア活動を記念して、10 月 10 日をグリーンスカウトデーとして祝う活動を行います。
2. AFS 提携団体の青年リーダーやメンバーの間で、人命に対する慈善活動の精神を復活させます。

(2) 国際ネットワーク機能強化事業

設立基本目標の一つである国際連帯を図るネットワーク事業。当事業推進ために AFS/ICO (国際調整事務局) を設けている。

アジアにおけるネットワーク強化を推進と、調整を行うために、JAFS と AFS ネットワーク

2024 年度より新たな AFS-ICO 事務局の担当者として AFS メンバーより Reshna Bajracharya (レシナ バジュラチャルヤ 現京都大学大

学院留学生) が就任した。

(3) アジア・フレンドシップ夢基金

当基金は AFS/ICO (国際ネットワーク事務局) の事業の一環として本会のアジアにおけるネットワークの求心力を高めるために 2008 年に設立された国際基金。現在アジア 8 カ国の各支部が任意に参加している。

本会において国際基金は 2010 年から「夢基金」という名目で世話人会が発足。募金のための世話人会(代表 坂口久代理事)を設けて国際基金募金に協力している。

2024 年 5 月 15 日、7 月 19 日、10 月 10 日、12 月 6 日に夢基金世話人会を開催した。7 月 27 日(土) UMESHIBA BASE by UR でクラウド・ディーター・プラントによるアジア・フレンドシップ夢基金 チャリティ チェロコンサートを開催。参加者: 23 名。

2. 国際体験交流 (スタディツアー等)

アジアにおける本会海外プロジェクト視察や、アジアの現状に対して足を運び実感するスタディツアー等を通じて、国際理解文化交流の場を広く人々に提供し、本会の活動事業への理解と協働と連帯の輪を内外に広げることを目的とする。

今年度は、JAFS 企画の募集型スタディツアーを 1 カ国にて 1 回のスタディツアーを実施した。

1. インドネシア 教育と環境を実感するスタディツアー

期 間: 2025 年 2 月 20 日～27 日

場 所: インドネシア、ジャワ島・南タンゲラン市とバリ島

参加者: 9 名

(龍谷大学海外体験学習プログラムに当ツアーが採択され、4 名を受け入れた)

内 容: 現地大学生と環境テーマで意見交換、現地小学生と交流・クリーン活動・環境教育、野積みのごみ処分地やごみ処理施設を視察、ビーチやマングローブ林で植林とクリーン活動、海がめ保護や海洋環境の学習



ネットワークセミナー 次世代参加者たち(ユース議論を実施)

Ⅱ．国際交流事業



CD コース奨学生としてフィリピンで学ぶアスタ バルサカデ(インド)



インドネシア・スタディツアー ジャカルタの大学生と意見交換や交流



インドネシア・スタディツアー バリの小学生に習字を教える文化交流



第30回ネットワークセミナーのオープニング全体会議の様子



ネットワークセミナー サルボダヤ創設者アリヤトネ博士を偲ぶ会



現サルボダヤ代表のビニヤ アリヤトネ博士による基調講演



ネットワークセミナー サルボダヤの防災チーム活動を学ぶ参加者



ネットワークセミナー宣言文を発表し提出するインターンシップ生(左)

海外提携団体 AFSネットワーク

(18ヶ国 65団体 日本除く)

提携団体 (略称)	管理責任者	所在地	活動
1 インド			
1 BSVIA	N. クンバー	カルナータカ州ビジャヤプーラ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
2 EDCI	S.サンディシュ	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策、環境
3 AFS Kolkata	A. バナジー	西ベンガル州コルカタ	水
4 SSH	B.セルヴァラージ	タミルナードゥ州ディンディガル	水、子ども、災害復興
5 RUDYA	K. デオガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
6 HDSI	P. ソラット	マハラシュトラ州アムラワティ	水、環境
7 JVK	アショク・トッポ	オリッサ州ブバネシュワール	災害復興
8 AMS	A.P.ポール	タミルナードゥ州マバルワベタイ	水、貧困対策
9 Runa	ピーター・ペロ	ナガランド州コヒマ	水
10 AFS-Nagpur	P. ビシャール	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策
11 AFS-Akola	D. ダンラジ	マハラシュトラ州アコラ	環境
12 AFS-Rural Gacchioli	D. パルサガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
13 AFS-Gadchiroli	P. ソンタッケ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
14 AFS-Saoli	B. アレワール	マハラシュトラ州チャンドラプール	貧困対策
15 AFS-Aramori	M. ヘポット	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
16 AFS-Chhattisgarh	S.H.パッタン	マハラシュトラ州チャティスガー	貧困対策
17 AFS-Sanguli	クムディニ・ナシュテ	マハラシュトラ州ソラプール	子ども、貧困対策
18 AFS-Latur	ラジ・マホール	マハラシュトラ州ラトール	子ども、貧困対策
19 AFS-Bangalore	カムレ	カルナータカ州バンガロール	子ども、貧困対策
20 AFS-Lonara	タラチャン・カプセ	マハラシュトラ州ロナラ	水、貧困対策
2 インドネシア			
21 HOSANNA	E.サントサ	バリ島ケロボカン	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
22 AFS-Aceh	サラ・ジュマリア	アチェ州	環境、災害復興
23 AFS-Jakarta	B. ラバン	ジャカルタ	水、貧困対策、環境
24 Dhyana Pura 大学	マデ・ニヤンドラ	バリ島クタ	国際交流
3 韓国			
25 公州大学校産業科学大学	調整中	忠清南道礼山	国際交流
4 カンボジア			
26 KAFS	ロン・チョーン	プノンペン	水、子ども、貧困対策
5 シンガポール			
27 AFS- Singapore	エドワード・オング	シンガポール	国際交流
6 スリランカ			
28 SARVODAYA	V.アリヤラトネ	モラトゥワ	水、環境、貧困対策

7 タイ				
29	VITAL	K.スリサン	コンケン県マハサラカム	貧困対策
30	TAFS	ラウィー・ボアウェン	バンコック	子ども、国際交流
31	FON	サック・ノスリ	ナン県	子ども、貧困対策
32	ELF	チャイチェン	チェンマイ	国際交流
33	AFS-Chang Mai	チャイワット	チェンマイ	国際交流
34	AFS-Lampang	スラポン・パクディ	ランパン	環境
35	AFS-Udontani	サン・セン	ウドンタニ	国際交流
8 中国				
36	CHAFS	羅 紅光	北京	子ども、環境
37	AFS Uighur	ユスフ・エムデオラ	ウルムチ	貧困対策、国際交流
9 ネパール				
38	AFS-Nepal(GreenScout Nepal)	クリシュナ・ネパール	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
39	HARD-EC	S.P.ジョッシ	カトマンズ	貧困対策、環境
10 パキスタン				
40	PAFS	C.H.ナディーム	イスラマバード	水、子ども、災害復興
11 バングラデシュ				
41	AFS-Bangladesh	ゴータム・モンデル	ダッカ	水、貧困対策
42	AFS-Dhaka	M.フェローズ	ダッカ	水、子ども、貧困対策、環境
43	AFS-Chittagong	I.チョウドリー	チッタゴン	国際交流
44	BDP	アムローズ・ゴメス	ミルプール	水、子ども、貧困対策、災害復興
45	AFS-Chandraghona	プロビール・キャン	チャンドラゴナ	水、子ども、災害復興
12 フィリピン				
46	KALIPI	エロイサ・クナナン	ヌエバエシハ州サンレオナルド	水、貧困対策、環境、災害復興
47	AFS-Pandan	ネリ・サラビア・レクトラ	アンティーケ州パンダン	水、子ども、環境、貧困対策
48	AFS-Virac,Catanduanes	ランド・グロバット	カタンドゥアネス州ビラク	水、環境、災害復興
49	AFS-Manila	マラガ・アマンテ	マニラ市	国際交流
50	AFS-Zamboanga	エメリタ・バシリオ	南サンボアンガ州サンボアンガ	国際交流
51	Asian Social Institute	ミナ・ラミレズ	マニラ市	子ども、貧困対策、環境、災害復興
52	AFS-Davao Oriental	レイナルド・ギタカイ	東ダバオ州ダバオ・オリエンタル	国際交流
53	AFS-Ibajay	エミリー・アランゴテ	ア克蘭州イバハイ	子ども
54	AFS-South Antique	ビクター・デ・グラシア	アンティーケ州サンホセ	子ども
55	AFS-Sorsogon, UMD	ジーナ・ヤップ	ソルソゴン州マトノグ	子ども、環境、貧困対策
56	AFS-Antique	ジェネロサ・コンデス	アンティーケ州	貧困対策、環境
57	AFS-Guimaras	ヴィック・デ・グラシア	ギマラス州	環境
58	AFS-Kabankalan	エライザ・ベルナオーラ	西ネグロス州	環境
59	AFS-Tacloban	ロウェナ・ロセ	レイテ島タクロバン	貧困対策、災害復興
13 ベトナム				
60	Cantho 大学	ドン・バン・ニー	カントー	貧困対策
14 マレーシア				
61	AFS-Malaysia	リム・チャイ・ホン	ペナン	環境、災害復興

15	ミャンマー			
62	MAFS	ベンジャミン・マンゲ	ヤンゴン	水
16	モンゴル			
63	MoAFS	エンフトヤ	ウランバートル	貧困対策
17	ラオス			
64	LPRYU	ワンペン・クンポーライ	ビエンチャン	水、子ども
18	アフガニスタン			
65	AAFS	ラハマト	ジャララバード	貧困対策



第30回アジアネットワークセミナーに参加したネットワークメンバー

Ⅲ. 生活支援事業

Ⅲ. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業

Ⅲ－A. 災害等罹災者支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

(1) ネパール中部地震 災害復興支援

AFS-Nepal ネパール中部地震 被災地復興支援

【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区(旧ボテンパ村)／カルナリ県ジャジャールコット市】

2015 年 4 月 25 日に発生した地震の被災地、被災者に対して、復興及びその後の持続可能な地域づくりを目指し、2022 年 3 月に完成した揚水システム(4ヶ所の中継タンク及び送水ポンプの運営フォロー支援を行ってきたが、2024 年 7 月と 9 月に発生した大洪水により取水口エリアの設備が流された。水の使用が出来なくなった為その修繕の準備をおこなった。加えて、被災地の復興に際して必要な避難袋等の支援を実施した。

(2) ネパール防災事業

JAFS / AFS-Nepal 防災・減災支援

【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ農村型自治体全 12 区】

「シンドゥパルチョーク郡の農村型自治体における防災力強化事業」

防災力の強化を目的とし、2015 年の地震の震源地にも近く、主要道路から隔絶された Rural municipality(以下「農村型自治体」)において、自然災害により孤立した際にも、自立した地域となることを目指した支援活動を実施。

災害への事前対策という観点で、住民による防災組織を設立し、防災活動の拠点となるコミュニティセンターと、村内各区に緊急時避難スペースを確保した防災備蓄倉庫を整備する。コミュニティセンターには FM ラジオ局を併設し、次年に設置する各区の放送ステーションと組み合わせた公共放送システムにより、災害リスク情報を共有する。併せて防災知識の啓発やマイ防災マップの作成などにより、コミュニティ力の強化及び人材育成を図り防災力を継続させる。加えて、土砂災害リスクの高い箇所では斜面対策を実施し、人命・資産(農地)を守る。このハード・ソフト両面での災害リスク軽減に寄与する取り組みにより、自助・共助による防災力を持ち、災害に強く持続的に成長する農村型自治体を目指す事業を 3 年間事業として 2023 年 3 月 18 日に事業を開始し 2 年次事業を 2024 年 3 月 18 日にスタートさせた。2 年次は、年度中に計 7 回、直接ひ益者 461 名へ講習会を実施した。

プロジェクト上位目標:コミュニティ力の高まりにより、地域社会が活性化し、高い防災力を持つ農村型自治体が構築され、自助・共助そして公助の連携・協働により災害リスクが軽減し、生活および経済基盤が安定することで、若者が定住し、持続的に発展する地域社会が確立する。

プロジェクト達成目標(3 年間の):インドラワティ村において、各地区における防災拠点の運用と防災組織活動及び情報システムの活用により、自立した防災活動が実施され、防災力が向上する。

2 年次目標:情報共有システム運用能力を高める知識習得と実践、

災害リスク軽減のハード対策

2 年次活動内容: 公共放送(FM ラジオ局)の運営管理技術講習 / 放送の運営スキル・知識習得/土砂災害リスク軽減(斜面崩壊)対策工事 / 自治体及び学校での防災講習 /避難訓練(1 回目) / 防災備蓄倉庫の設置

以下の活動の実施を行う前に、1 年次に建設した防災コミュニティセンターの譲渡式を 4 月 23 日に実施し、現地の管理委員会に譲渡した。

1) 公共放送運営及び放送内容のための技術講習等

1. 日本人専門家による公共放送システムのメンテナンス技術講習: 4 月 29 日～5 月 10 日、全区にて、公共放送システム用のスピーカーおよび増幅器の設置目的、活用方法、機器の説明を含む講習を専門家の畑中義男氏により、区長、学校関係者、防災組合員(DPA)、区の公務員エンジニアを対象に実施。

2.FM ラジオ局の運営管理の技術講習 : 1 年次に建設した防災コミュニティセンター内に設置された FM 局のスタッフ及び関係者に対して 2 月 日～

3.放送ステーションの運営 :各区設置した中学又は高校にて実施
1 月 1 日、2 日に起きた地震に対する行動の諸注意を学校の放送から近隣住民へインフォメーションを行うことができた。

4. 放送内容知識講習: 2 月 2 日～10 日に上記学校の放送クラブのメンバーと区の職員 1 名を対象に実施。

10 区のチャンデソリ高等学校においては、京都暁星高等学校のワークキャンプ時に日本における学校放送の状況説明と滑舌をよくするための早口言葉トレーニングを実施。

2) 土砂災害リスク軽減

1. Eco-DRR による崩壊または不安定斜面の対策工事:6箇所実施
予定中 3 か所実施

Ward 10(220 m²)、Ward 9-①(約 200 m²)、Ward 9-②(22×60m =1,320 m²)

ただし、Ward9-②のエリアについては、雨季中に崩れた場所があるため修復工事を行う必要がある。

2. 山腹工実施箇所への植林:ライ麦の播種を行い植物の根で固定を実施している。その後土が締まった段階で植林を行う。

3. 日本人技術者による斜面崩壊対策技術の指導 3 回:1 回目 4 月 21 日より、2 回目 5 月 29 日より、3 回目 11 月 26・27 日に実施
講師 天野 紀

3) 防災活動の実践

1. 地域の防災組合に対する防災講習:8 月 26 日～9 月 17 日 実施

講師:Mr. Rajkumar Lamsal, Trainer and facilitator
Mr. Diwakar Poudel, Trainer and facilitator

参加者:各区 15 名 合計 180 名

Ⅲ. 生活支援事業

※内容について、現地において好評であった為、内容を冊子にまとめ、各 Ward 及び農村自治体に譲渡

2. 学校に対する防災講習:2月～3月に実施予定

3. 防災リーダー育成:11月19日～25日にて実施

講師:天野 紀、田中里菜、高木麻衣 (協力:パシフィックコンサルタンツ)

4) 防災備蓄庫兼緊急避難所の設置: 7か所(12区中7区へ設置し、残り5区は3年次に実施)

3区、4区、6区、8区、9区、11区、12区に設置した。

本事業は、R5年度日本 NGO 連携無償資金協力との協働により実施。2年次終了は6月20日の予定。

(3) ウクライナ支援

①JAFS 保健支援

【スームイ州トロスタネツカ市】

「スームイ州トロスタネツカ市民病院のリハビリテーション人材育成による被害者への健康回復機能強化事業」

実施期間:年3月30日～2025年3月31日(2025年6月30日まで延長)

事業概要:ウクライナ、スームイ州トロスタネツカ市にある市立病院に勤務している理学療法・作業療法を専門としているスタッフ4名が、レベルアップの為に経験値の高い理学療法士・作業療法士よりの指導を日々の患者対応を行う中で学び、リハビリテーションを担う人材の養成を行うことで、一人でも多くの負傷者が適切に回復し、日常生活動作を不自由なく行える人口を増やすことを目指して事業実施調整を行ってきた。しかしながら、現地では度重なる攻撃により院長が負傷し、計画を延期せざるを得ず、庭野平和財団の助成金にて実施を計画していたが、年度内の実施が出来なかった。

②JAFS 国内避難民支援

【日本 関西エリア(特に大阪)】

1. 日本料理教室サポート

6月29日(土)関西ウクライナ友好協会が実施する日本料理教室へ協力を行った。

2. その他、上記協会の活動実施に対する相談に対するコンサルテーション協力を随時行った。

(4) 能登地震支援

JAFS / 避難生活サポート

【石川県 能登半島】

石川県の能登半島地震被災地には、未だ上下水道復旧や被災家屋の撤去修繕が進まない地域が多く、避難所での生活が長期にわたっている被災者が数多い。避難所で日々提供される食事は、やむを得ず調理済み加工食品が多く、変化に乏しく栄養バランスも悪くなりがちであるため、生鮮食品と水分確保できる炊出しを行い、作り立ての温かい食事を提供することで、不足しがちな野菜や、食の楽しみという潤いのひと時を届けた。以下の通り7回現地を訪問した。

1. 炊き出しと交流支援

1) 4月12日(金)-13日(土) 炊き出し カレーうどん・フルーツジュース 150食

場所: 珠洲市生涯学習センター

2) 6月21日(金)-22日(土) 炊き出し カレーうどん・フルーツジュース 70食

場所: 輪島市門前町 特別養護老人ホームゆきわりそう

3) 10月12(土)-13日(日)

①12日(土) 炊き出し カレーうどん・フルーツジュース 120食
場所: 珠洲市三崎公民館

<https://www.city.suzu.lg.jp/map/4497.html>

住所: 石川県珠洲市三崎町宇治ヨ部 114 番地の 13

電話番号: 0768-88-2049

②13日(日) お好み焼きと映画の提供

場所: 港町団地集会所(穴水町字大町い 111) 36戸

4) 11月9(土)-10日(日)

10日(日) 昼食 炊き出し お好み焼き・みかん 210食

場所: 穴水町字由比ヶ丘42番地(元 陸上競技場)の仮設団地

5) 12月7日(土)-8日(日)

8日(日) 昼食炊き出し カレーうどん・みかん 220食

場所: 輪島市河井町の輪島市立輪島中学校の避難所及びその周辺住民の皆さん

6) 2025年3月1(土)-2日(日)

1日(土) 夕食 炊き出し カレーうどん 150食

場所: 宅田第二仮設団地

住所: 輪島市宅田町 23-1 戸数: 142

7) 2025年3月15(土)-16日(日)

①15日(土) 昼食炊き出し カレーうどん 220食の提供とジャズピアノコンサート

場所: 宅田第二仮設団地

住所: 輪島市宅田町 23-1 戸数: 142

②15日(土) ジャズピアノコンサート+お茶菓子+カップ生めん

場所: 輪島中学校の避難所

③16日(日) ジャズピアノコンサート+お茶菓子

場所: 穴水町甲地区。

※ジャズピアノコンサートは竹中真先生に協力を得て実施。

本事業の3回目から7回目の実施費用の一部は、大塚商会ハートフル基金の助成を得て活動をおこなった。

2. 物資提供支援

1) 輪島市の避難所: 避難所2か所で生活を送る人々の生活を支えるため、冷蔵庫2台と布団乾燥機2台を支援した。

2) 輪島市の避難所: 避難所1か所で生活を送る人々にアジアの子ども達の写真をつけたメッセージカード、バングラデシュ刺繍のコースターなど海外との接点を持ってもらう機会を提供した。

(5) バングラデシュ東部水害被災者支援

JAFS/BDP 生活サポート/健康状態改善

【カグラチャリ県カグラチャリ市/ノアカリ県ノアカリ市】

「カグラチャリ県とノアカリ県のマイノリティ洪水被災者への食料提供を通じた健康状態改善計画事業」

8月より降り続く雨により水没したうえ、その後も続く雨により再度浸水した。重ねて被害をうけたカグラチャリ県はインド国境に近い非常に辺鄙な場所にある地域で、インドからの大雨や鉄砲水による土砂崩れで畑が浸水し農作物を喪失したことにより栄養失調に苦む状況となり、ノアカリ県は低地で海に近い場所のため多くの人が家を失った。水媒介性疾患が蔓延しつつあり、子供や女性が栄養失調の状況である上に宗教や人種が異なることによる虐待に苦しんでいた。その為、各県4000世帯に対して、以下の支援を行った。

【事業実施期間】9月29日～11月29日

【目的】洪水被災者のうち特にマイノリティ・コミュニティの住民が、食

Ⅲ. 生活支援事業

料、衛生用品を確保し、栄養状態の改善をおこなう。
アウトカム 1(食料配布): 基本的ニーズを満たす食料提供が確保できる。
アウトカム 2(衛生用品配布): 住民の最低限の衛生を改善することができる。

被災世帯の中でも、少数民族や宗教的マイノリティの世帯に焦点を当て、さらに、①女性が世帯主である世帯、②障害者のいる世帯、③収入の低い世帯(日雇い業についており、村落平均の 1 か月の世帯収入 10,000BDT(=12,200 円相当)以下の収入で暮らしている世帯)④幼児のいる世帯といった社会、経済的に脆弱な被災住民目標 4,000 世帯に対して、1 か月 2 回分、合計 8,000 世帯に対して、基本的ニーズを満たす食料の配布を達成することができた。

活動内容1: 食料配布
4000 世帯に対し、1 世帯あたり以下の物資を配布米(20kg)、油(2ℓ)、豆(2kg)、塩(2kg)、じゃが芋(3kg)、玉ねぎ(2kg)の配布

活動内容 2: 衛生用品配布
4,000 世帯に対し、1 世帯あたり以下の物資を配布
粉末経口補水液(4 袋)、ばんそうこう(5 枚)、石鹸(1 個)、生理用品(1 パケット)を配布した。

活動内容 3: 食糧配布後の調査・モニタリング実施

【成果】
カグラチャリ県のサジェック・ユニオン、モハルチョリ・ユニオン、ディギナラ・ユニオン、マティランガ・ユニオンの、4 ユニオン、並びに、ノアカリ県のショドル・ユニオンにおいて、特にマイノリティ(少数民族、宗教的マイノリティ)の社会的経済的な脆弱な被災住民 4,000 世帯に対して、1 か月間に 2 回分の食料配布(8,000 世帯分)と、1 度の衛生用品の配布を行い、住民の基本的ニーズを満たす食料の確保、最低限の衛生改善、さらに、これらの活動を通して、住民の栄養改善を行うことができた。

上記のように被災世帯の中でも、少数民族や宗教的マイノリティの世帯に焦点を当て、さらに、①女性が世帯主である世帯、②障害者のいる世帯、③収入の低い世帯(日雇い業についており、村落平均の 1 か月の世帯収入 10,000BDT 以下の収入で暮らしている世帯)④幼児のいる世帯といった社会、経済的に脆弱な被災住民目標 4,000 世帯に対して、1 か月 2 回分、合計 8,000 世帯に対して、基本的ニーズを満たす食料の配布を達成することができた。
本事業 JPF(ジャパン プラットフォーム)の助成を得て実施した。

(6) フィリピン連続大型台風被災者支援

AFS Catanduanes、ASI、AFS Sorsogon / 生活サポート

【カタンドゥアネス州カラモラン町パロンバナネス島】
11 月 15 日に上陸した大型台風マンイーはビコール地方を直撃、最も壊滅的な被害を受けたカタンドアネス州最北端に位置するパロンバナネス島は 400 世帯の住む小さな漁村で、152 世帯の家が全壊しその他の家も半壊または大きな被害を受けた。住民の大半はもともと安定した収入を持たない貧困状態にあり、基本的なニーズを満たすのに極めて困難な状況に直面していた。漁業で生計を立てているが、船や漁に必要な設備も損傷または紛失し魚をとりにくいことも一番近い町があるカタンドゥアネス島に渡ることもできずにいた。台風後もビコール地方全体にラニーニャ現象の影響がでており、大雨と気温が低い日が続いたことから 1 月と 3 月に 2 度の支援活動を行った。

【第 1 次支援活動】 1 月 22 日(水)～28 日(火)

実施体制: JAFS 提携団体
AFS カタンドゥアネス(被災状況調査・受益者)
ASI(会計・ボランティア協力)
地方行政(支援活動・受益者情報等の共有)
緊急支援物資(米・缶詰・食用油・醤油・酢・麺類等)配布 410 世帯
【第 2 次支援活動】 3 月 24 日(月)～27 日(木)
実施体制: JAFS 提携団体、JAFS
AFS カタンドゥアネス(被災状況調査・受益者)
ASI(会計・ボランティア協力)
AFS Sorsogon(有機ごみ堆肥化・野菜栽培等指導)
地方行政(支援活動・受益者情報等の共有)
緊急支援物資(米・缶詰・麺類・コーヒー・ビスケット・野菜の種等)配布 400 世帯

AFS Pandan / 生活サポート

【アンティーク州パンダン町】
2024 年 9 月 15 から大型台風 13 号(ビエンカ)がフィリピン中部を横断し、その前後の台風の影響も合わさり大雨による鉄砲水や洪水、地滑りが引き起こされ、47,166 世帯(203,197 人)に大きな被害を受けた。パンダン町の 33 ヶ村の特に被害が大きかった地域で、避難所(学校)を拠点に支援活動を実施。食事提供や支援物資配布、被害を受けた学校や家屋、森の修復をグリーンスカウトメンバーが中心となりおこなった。広い範囲で浸水したため、水害被害を受けた学校の共用設備支援、今後の台風被害を少しでもおさえるための防災訓練や山と海の森づくりの活動へとつなげていく。

2. 災害における緊急支援対応活動

(1) 災害発生時初動対応活動

緊急支援が必要な災害等が起きた際、迅速に初動対応(初動調査含)ができるための資金を確保するために、緊急支援対応基金を設立し、緊急支援募金から一定の割合を本基金に充てることとした。
また、同時に即時対応できる人員確保も重要であるために、人材バンクづくりを行うこととした。

(2) 東日本大震災 被災地復興見守活動

東日本大震災支援活動にて開設した、味噌工房が継続的な運営ができるよう、味噌づくりの端境期の梅干しづくりのために南高梅や紫蘇の物資支援を今年も行い、梅干しづくりが行えるサポートをおこなった。



ネパール 完成した防災コミュニティーセンター譲渡式

Ⅲ. 生活支援事業



ネパール 地域防災用放送スピーカー設置を指導する畑中専門家



ネパール 斜面崩壊箇所の山腹工事により地域防災を行う



ウクライナ支援 日本への避難民に日本料理教室協力



能登 輪島の避難所へ生活する方々へ物資の支援



能登支援 避難所訪問にて竹中真ピアノコンサート実施



バングラデシュ東部水害支援 カグラチャリ県での物資配布



バングラデシュ東部水害支援地 ようやく水がひいたと話す住民



フィリピン パロンバネス 台風被災者に支援物資を配布

IV. 普及啓発事業

IV-A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) JAFSチャリティプログラム

JAFS チャリティバザールは春と秋に住駅前北側のデッキ広場で開催していたが出店、来場者とも減少していることから中止した。

年末恒例開催のチャリティパーティ「アジアン・チャリティフェスティバル」は、在関西のアジア人・留学生 34 名を含む 192 名の参加により、第 9 回を開催した。アジアからの留学生・社会人を招き、アジアと相互理解し日本人とアジア人が共生する社会づくりの一助となった。(参加者の外国人比率は 18%)

<第 9 回アジアン・チャリティ・フェスティバル>

日 時: 12 月 22 日(土) 10:30~17:00

共 催: 公益財団法人大阪国際交流センター

場 所: 公益財団法人大阪国際交流センター

大会議室さくら、小ホール

参加者数: 192 名(内留学生(招待)24 名、外国人 12 名)

(参加者の外国人比率は 18%)

主な内容:

- ① 映画「セカイイチオイシイ水」上映
- ② 関西アライモ(LGBTQ&国際的ダイバーシティモデル)によるファッションショー、韓国伝統宮廷舞踊、変面(中国)、日本語スピーチコンテスト最優秀者のスピーチ等 16 の個人・団体によるステージ
- ③ エスニック食材、ベトナム料理、スリランカ物産販売、ネパール手工芸品、石川県物産販売、など 19 の出店
- ④ 交流ゲーム(けん玉)大会
- ⑤ ビンゴゲーム

チャリティ成果:

収益の一部 10 万円をアジアの子ども支援に寄付した。

実行委員会 2024 年 5 月~2025 年 1 月(反省会) 全 9 回 開催

(2) 国際理解教育講座

NGO が学校や団体の研修の場に入り、相互理解・協力をはかりながら人材を育てていくことを目的に実施している事業。2023 年度も NGO 活動を通じた学校や団体の国際協力参加について様々な講義・研修を行った。

NGO 講師派遣 【のべ 8 カ所、380 名】

6 月 3 日 大阪高齢者大学 国際文化交流科 講義 (40 名)
「アジアと共に生きる」

6 月 13 日 大精教看護専門学校 文化人類学特別講義 (40 名)
「ネパール日本の関係、そしてアジアの医療・保健事情とその支援活動」

6 月 14 日 大精教看護専門学校 文化人類学特別講義 (40 名) 「ウイグル編」

6 月 21 日 大精教看護専門学校 文化人類学特別講義 (40 名)
「アジアについて、途上国における NGO の活動と役割」

10 月 16 日 龍谷大学 国際ボランティア論特別講師 (35 名)
「水の問題と保健衛生～ネパールの事例から～」

10 月 14 日 京都西南ロータリークラブ 国際奉仕フォーラム (50 名) 「ネパールを食生活より知る」

11 月 8 日 京都暁星高等学校 出前授業 (120 名)
「国際協力支援の意義と私たちの役割」

12 月 5 日 大手前高等学校 国際理解授業(集中セミナー) (13 名+教員 2 名)
「NGO の現状と活動／私たちの暮らしと国際支援との相互性」

(3) 国際ボランティア啓発活動

海外プロジェクト報告会の実施。各地区にて支援事業の報告会などを随時実施。また月 1 回のぞうすいの会にて報告を実施した。地域において、アジアよりの留学生や在日外国人 また弊会で招聘しているネパール留学生による報告会開催など生の声を聞く機会を積極的に実施した。

(4) アジア文化理解講座

国際協力を身近に感じられる催しを通じて、参加者が国際交流・支援活動への参加につなげることを目的としている。在日されているアジアの人々と直接触れ合い、それぞれの歴史、文化、日常生活、政治経済まで多岐にわたる話題を自由に話し合い、相互理解を深める機会として「アジアの仲間」を開催した。

11 月 9 日 第 6 回「ベトナムのお話し」

ゲスト: グエン・チ・フォーさん (ベトナム就学生) 参加者: 13 名

(5) 研修生・実習生受入プログラム

大学生インターンシップ及び実習受入

◆JAFS インターンシップ制度

JAFS の人材育成事業としてのインターンシッププログラムに 5 名が参加し、NGO 活動を学ぶと同時に、JAFS の事業活動への理解を深める機会とした。

今年度は 1 名が 1 年間通して活動し、里親の会で支援するアジアの里子からの手紙などの翻訳、小学校での在日外国人児童対象の日本語サポート活動、インドネシア・スタディツアー企画への

IV. 普及啓発事業

参画などを行った。今年度から NPO 法人ドットジェイピーを介した大学生インターンの受け入れを始め、大学の春休み期間に4名が活動した。うち2名は「水」写真コンテストの作品募集から展示会までの広報や運営に携わった。他の2名は、インドとバングラデシュの少数民族の文化や暮らし、教育問題などを、SNS を用いて広く一般の人に知らしめ、支援協力を募る活動を行った。

各々が、日頃触れることのないアジアの現地情報に出会い、JAFS 以外では得がたい将来に役立つ経験をした。

当会としては、若い世代のアイデアや感覚を事業活動に取り入れることができた。また広報媒体として、若い世代に多く使われるインスタグラムを従来よりも活用することができ、若年齢層とのつながりが新たに生まれた。

当会インターンシップ募集により以下5名が活動を行った。

中村 駿(大学生) 4月15日～3月31日
池田空見(大学生) 1月24日～3月24日
松本日菜向(大学生) 2月4日～3月28日
西村彩花(大学生) 1月24日～3月26日
日下部 尊(大学生) 1月24日～3月25日

(6) 法人関連プログラム

今年度は昨年度に続いて法人賛助会会員を対象に昨年3月に着任された日本銀行理事大阪支店長中島健至氏による講話と懇親会を開催した。

- ・日時:2024年4月16日(火)18:30-20:30
- ・会場:ホテルアウィーナ1階レストラン(大阪市天王寺区)
- ・講話者:日本銀行 理事 大阪支店長 中島健至氏
- ・テーマ:最近の金融経済情勢と今後の展望
- ・参加者:24名

(7) JAFS 社員クラブ

今年度は、2024年6月8日(土)の第13回社員総会後の懇親会は実施したが、一般会員を交えて実施したため、特に「社員クラブ」としての開催は行わなかった。

(8) JAFS アジア市民大学

政治経済はもとより自然・社会・文化などについて多角的に、一味違うアジアを探索する場として、2019年1月に第当会40周年記念行事として第1期を開学。第5期は2023年9月に開講し今年度は2024年4月以降8月までに5回開催し、第6期は2024年10月に開講し、3月までに6回開催し合計219名が参加した。

《第5期》

- ・2024年4月13日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第8回「アジアの少子高齢化」
講師:京都大学大学院文学研究科文化越境専攻 准教授 安里 和晃氏
参加者:17名
- ・2024年5月11日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第9回「岐路に立つ東南アジア政治一民主主義の行方」
講師:筑波大学人文社会系 准教授 外山 文子氏
参加者:23名
- ・2024年6月1日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第10回:『『からゆきさん』ゆかりの地、シンガポールとペナン(マレーシア)を訪ねる』
講師:立命館大学文学部名誉教授 藤巻 正己氏

参加者:15名

- ・2024年7月6日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第11回「ウクライナ支援を続けて見えてきたもの」
講師:日本ウクライナ文化交流協会 会長 小野 元裕氏
参加者:22名
- ・2024年8月24日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第12回「アジアの動向と展望:JAFS市民大学講座の総括」
講師:奈良大学名誉教授 アジア市民大学学長 實 清隆氏
参加者:21名
*終了後、懇親会実施。

《第6期》

- ・2024年10月12日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第1回「シンガポールとベトナムから見たアジアの未来への想像から創造へ!」
講師:日越大学・ハノイ国家大学 客員教授 桂 良太郎氏
参加者:20名
- ・2024年11月9日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第2回:「台湾観光の風景に刻み込まれた日本統治期の痕跡」
講師:立命館大学 名誉教授 藤巻 正己氏
参加者:15名
- ・2024年12月14日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第3回:「インドには勝てない『最強国家の実力』」
講師:関西日印文化協会 副会長 広瀬 公巳氏
参加者:19名
- ・2025年1月11日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第4回「身近で見たアジアの政治リーダーたち」
講師:元朝日新聞アジア・中国総局長 加藤 千洋氏
参加者:29名
- ・2025年2月8日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第5回:「日本と比べて見ればよくわかる韓国」
講師:立命館大学コリア研究センター 客員研究員 生駒 智一氏
参加者:21名
*終了後、懇親会実施。
- ・2025年3月8日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第6回:「現代モンゴルにおける食文化変容」
講師:立命館大学サステイナビリティ学術研究センター 客員研究員 堀田 あゆみ氏
参加者:17名

(9) 第5回日本語スピーチコンテスト

アジアと日本の絆を深める活動の一環として、2019年に第1回を開催。今年度は第5回日本語スピーチコンテストを開催した。

日時:2024年10月14日(祝)14:00-16:30

会場:クレオ大阪中央セミナーホール(大阪市天王寺区)

後援:(公財)大阪国際交流センター

後援:(公財)大阪国際交流財団

協賛:学校法人エール学園、JAFS 高槻、JAFS なにわ南地区会
JAFS アジア市民大学、中西産業(株)、有限会社風光社
渡辺治彦 JAFS 理事

出場者:留学生12名+社会人4名 合計16名

(ベトナム、ミャンマー、中国、インドネシア、アルゼンチン、モンゴル、スリランカ)

関係者他:全47名(内審査員6名)

内容:留学生スピーチ(日本に来て感じたことなど)

結果:留学生の部

IV. 普及啓発事業

最優秀賞 1 名(マルワッタ・パティランナハラゲ・サンドウニカ・デビンディさん、スリランカ)
優秀賞 1 名(キンミーン・ミヤッサンさん、ミャンマー)
奨励賞 1 名(セバーシル・スベルリノさん、インドネシア)
社会人の部
最優秀賞 1 名(ケービー・チャンドラ・サマラセカラさん、ミャンマー)

(10) JAFS SDGs アワード

SDGs の観点より、「サステナブル ウォーターアワード」を設け、2021 年～2023 年度に 3 年間継続的に井戸支援くださることで、当会の目指す活動に貢献くださった個人・団体に感謝状を贈呈した。
《贈呈対象者・団体》 一般財団法人 H2O サンタ

(11) JAFS 日本語サポート

西船場小学校にて、外国にルーツがある児童のうち、日本語指導が必要な児童 9 名(前半 5 名、後半 4 名)を対象に、日本語サポート活動を行った。各児童週 1 コマの日本語サポートボランティア延べ 5 名が実施。それぞれの学習能力に応じた授業内容を作成し、学校の授業や学校生活、日本での生活に少しでも馴染めるようサポートを行った。

(12) 「水」写真コンテスト

3 月 22 日の世界水の日に伴い、水について改めて考えてもらうきっかけをつくる・与える機会として、第 4 回「水」写真コンテストを開催した。本年は、ユース部門(小学生～大学生)と一般部門の 2 部門を設けて審査、開催した。

〈テーマ〉「水から見える世界 ～水の大切さを切り撮る～」

〈応募数〉合計 88 点 二次審査通過数:20 点

〈審査〉

一次(審査員)審査:2025 年 1 月 6 日～2 月 1 日

二次(投票)審査:2025 年 2 月 19 日～2 月 24 日

写真展(投票審査):2024 年 2 月 19 日～2 月 24 日

大阪・阪急うめだ本店 9 階祝祭広場にて開催

最終審査結果を 3 月 22 日世界水の日にホームページにて発表

〈投票数〉491 票

〈審査員〉

公文健太郎(審査委員長)

:写真家・2024 年日本写真協会賞作家賞

外間孝次:一般財団法人 H2O サンタ

吉川真理子:株式会社 ジャングル・コア

小山田宗弘:株式会社創栄社

松原正:JAFS 常任理事、株式会社かんぼう

〈協力〉一般財団法人 H2O サンタ

〈入賞者〉

一般部門

最優秀賞「滴」 zauber2011

優秀賞「稲を育て命をつなぐ水」上杉裕昭

ユース部門

最優秀賞「命を宿す水のささやき」葛西敦貴(大学生)

優秀賞「雪のトンネルから見た景色」原岡柚奈(小学 4 年生)

オーディエンス賞

「陽、海、家族」田所一駿(ユース部門、大学生)

審査委員長特別賞

「廻る」酒井笑美(一般部門)

(14) 関連プログラム／その他団体協力

◆(特活)関西 NGO 協議会

加盟し、理事として運営に関わった。各種催しに出席及び協力活動を行った。特に、常任理事会(副代表理事)に関わり、調整業務にも協力した。

理事会／常任理事会 基本 2 か月毎の出席

関西地域において JICA 関西と NGO-外務省連携推進委員会として外務省との国際協力におけるパートナーシップ推進に協力。

関西の NGO と外務省の窓口の役目を担うと同時に外務省との会議に出席。

◆(特活)関西国際交流団体協議会

1) 加盟し、監事として協力した。

2) ワン・ワールドフェスティバル: 第 32 回ワン・ワールドフェスティバルに実行委員会の一員として参加した。今年度は、初めて梅田スカイビルで行った。

期 間:2025 年 2 月 8 日(土)～9 日(日)

会場:梅田スカイビル 3 階ステラホール他

来場者数:約 2 万人

主 催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会

テーマ:共に生きる世界を～今こそ想う、みんなの命～

参加団体数:出展ブース 85 団体

*JAFS は会場にブース出展した。

◆(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)

正会員として加盟。2019 年より理事として運営に関わり、3 期目を担う。理事会及び関係する委員会にて協力。

◆認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)

NGO ユニット参加団体として加盟し、緊急支援時の協力関係を持っている。

◆一般財団法人 H2O サンタ

2025 年 2 月 19 日～3 月 24 日 H2O サンタ 第 20 回 NP Oフェスティバル(阪急百貨店 祝祭広場)に参加。活動出展、第 4 回「水」写真コンテスト、ステージでのチャリティーク、募金により井戸建設事業へと充てた。

上記以外のチャリティーク

9 月 7 日(土)、1 月 11 日(土)、阪急百貨店祝祭広場でのチャリティークにて JAFS の活動紹介を行った。

◆日本環境法律家連盟(JELF)

加盟し、加盟団体との情報共有。

◆SDGs 市民社会ネットワーク(SDGs ジャパン)

加盟し、開発ユニットなどに加入し、SDGs による開発事業のアドボカシー活動に参加している。

◆関西 SDGs プラットフォーム

会員登録し、SDGs の推進及び情報交換や広報活動に参加している。

IV. 普及啓発事業

2. 地区活動

各地域の地区世話人を中心に、本会の活動や理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力と連帯」の輪をひろげることを目指し地域の催しにも協力しながら活動をした。

- 第 1 エリア：大阪府北部、兵庫県東北部
- 第 2 エリア：大阪府東部
- 第 3 エリア：大阪市内
- 第 4 エリア：大阪府東南部
- 第 5 エリア：京都府、滋賀県
- 第 6 エリア：兵庫県（一 SD 部大阪近辺を除く）
- 第 7 エリア：奈良県、東大阪市、八尾市、和歌山県、三重県
- 第 8 エリア：大阪府西南部
- 第 9 エリア：西日本
- 第 10 エリア：東日本
- 第 11 エリア：東海、北陸・甲信越等

（1）会員委員会

2024 年度も、昨年に引き続き地域の役員（地区世話人）を中心に、会員活動を推進した。会員拡大・地域広報活動委員会は 10 月より会員委員会に名称を改め、会員増と共に会員活動の充実を図る活動を推進した。

- 開催日と参加者数：
- 第 1 回：4 月 18 日（水）8 名
 - 以降会員委員会
 - 第 2 回：10 月 31 日（木）5 名
 - 第 3 回：11 月 27 日（火）9 名
 - 第 4 回：1 月 21 日（火）9 名

- ◆第 1 回ウエルカムパーティー(新入会員歓迎会)
2024 年 4 月 13 日(土)10:30-13:30
会場:JAFS 会議室
参加者:21 名(内新入会員 8 名・ゲスト 1 名)
内容:新入会員・地区世話人・スタッフ自己紹介
JAFS 活動紹介(オリエンテーション)
交流会
- ◆第 2 回ウエルカムパーティー(新入会員歓迎会)
(第 1 回地区会長会&世話人会の第 2 部として開催)
2024 年 10 月 5 日(土)11:40-13:45
会場:JAFS 会議室
参加者:15 名(内新入会員 3 名)
内容:新入会員・地区世話人・スタッフ自己紹介
JAFS 活動紹介(オリエンテーション)
交流会

◆地区会長会&世話人会

第 1 回

- 2024 年 10 月 5 日（土）10:00-13:45
(11:40-13:30 は新入会員ウエルカムパーティー)
会場：JAFS 会議室
参加者：8 地区より 12 名
内容：
① 各地区上半期活動報告&近況報告

- ② 会員活動の現況と展望（渡辺治彦理事）
- ③ 次回京都開催（新年会）打ち合わせ
終了後、第 2 回ウエルカムパーティー開催

第 2 回(新年会)

- 2025 年 1 月 25 日（土）14:00-19:00
会場：日本基督教団 洛西教会
参加者：7 地区より 16 名 スタッフ 3 名 合計 19 名
内容：
第 1 部：地区世話人会
① 会員活動の取り組みについて 渡辺治彦理事
② アジア国際ネットワークセミナー報告
③ バングラデシュ水害支援報告
④ 地区活動近況報告
第 2 部：会員新年会

（2）地区世話人一覧

エリア	地区	氏名
1	尼崎	黒谷侑子
	池田	石原基義
	高槻	伊藤エリサ、川上礼子
2	寝屋川	笠谷正博、根津千枝子、畠山ひろみ
	枚方	天野由紀代、明見睦子、昆文彦、中江優子
3	なにわ東	奥 眞里子、杉本牧子、濱崎佳尚
	なにわ西	伊藤 勝、落合朋子、風早正夫、風早茂都子 篠塚達朗
	なにわ南	實 清隆、木本泰輔 出口貴之、中西豊次
4	河内長野	渡邊喜久次、新谷百代
	松原	橋本末子、谷岡康男
	富田林	真嶋克成、渡辺治彦
5	京都市	安宅義人、岳山修、辻 賢二、福井えり
	八幡	福川 肅、毛利吉男
6	三田	堀 正之
	西宮	平山隆史
	姫路	荒川鉄也、中尾和子、森 梢
7	生駒郡	林 昭宏
	生駒市	野池 徹、山田穂積
	奈良市	伊藤 誠、福岡名津子、渡邊瑠璃子
	新宮	瀧野秀二・三重子
8	堺高石	佐藤満昭
9	広島	宇田和博
	備前市	鳥居建十
10	東京	川崎隆二

（3）第 1 エリア

【高槻島本地区】伊藤エリサ、川上礼子、猪口薫、斎藤公代
今年度は、6 月 15 日に「みんなで音楽会」、2 月 15 日に
「ばた餅の会」を開催。

6 月 16 日 第 11 回アジアン・ホームパーティー

IV. 普及啓発事業

みんなで参加の音楽会
参加者：39 名
9 月 15 日 高槻市市民公益活動サポートセンター主催
高槻 N P O フェスタ 出展
2 月 15 日 第 12 回 アジアン・ホームパーティー
会員猪口薫さん（池田市在住）にて「ぼた餅の
会 Part2」開催

< 定例世話 原則毎月第 1 日曜日（13:30～15:30）開催 場
人会 > 所：クロスパル高槻または近辺のカフェ
主な参加者：伊藤エリサ、川上礼子、田辺真
里、猪口薫、齋藤 公代、柿島 裕

(4) 第 2 エリア

【第 2 エリア合同】
< “JAFS 北河内 緑とふれあう会” > 会長：笠谷正博

4 月 13 日	①じゃがいも間引き、追肥	
	②玉葱畝の草取り他	参加 8
4 月 27 日	①じゃがいもの芽かき	
	②さつま芋苗の追肥	参加 6
5 月 11 日	①じゃがいもの追肥 ②草取り	参加 8
5 月 25 日	①収穫：玉葱、そら豆 ②植付け：さつま芋 草取り	参加 7
6 月 8 日	①玉葱の収穫 ②草取り	参加 9
6 月 22 日	①じゃがいもの収穫、パクチ ②草取り	参加 9
7 月 13 日	①収穫：ミニトマト	
	②周辺草取り	参加 8
7 月 27 日	①草取り他	
	②向日葵開花	参加 6
8 月 10 日	①大根の畝作り	
	②草取り他	参加 6
8 月 24 日	①大根の畝作り ②草取り他	参加 7+1
9 月 14 日	①大根の畝作り ②草取り他	参加 8
9 月 28 日	①大根の種まき ②赤カブ種まき ③草取り他	参加 9
10 月 6 日	①さつま芋の試掘 ②大根の間引き土寄せ ③草取り他	参加 5
10 月 26 日	①さつま芋の収穫 ②ミカンの試し収穫 ③大根、カブ間引き	参加 9
11 月 7 日	①大根、カブ間引き ②草取り他	参加 7
11 月 23 日	①収穫：ミカン、大根、カブ、里芋 ②小屋解体	参加 8
12 月 15 日	①農地撤去復元作業 ②収穫：ミカン、大根、カブ	参加 6
12 月 21 日	①農地撤去復元作業 ②収穫：ミカン、大根、カブ	参加 8
1 月 25 日	①農地不用品撤去復元作業 ②整理清掃	参加 9
2 月 9 日	①農地不用品撤去復元作業 ②整理清掃	参加 4
2 月 22 日	①農地不用品撤去復元作業 ②整理清掃	参加 7
3 月 8 日	①農地不用品撤去復元作業 ②整理清掃	参加 7

※ 15 年間活動してきましたが、農園作業活動は本年をも

って終了しました。
※ 現地作業への参加、生産された農作物の販売や購入に
協力いただき感謝いたします。
※ 無農薬での自然栽培農作物で好評いただきました、あ
りがとうございます。
※ いままでの作業活動報告は、ブログをご覧ください。
<https://blog.goo.ne.jp/midori-hureai>
(または「JAFS 北河内緑とふれあう会」で検索)

【枚方】 天野由紀代、明見睦子、昆文彦、中江優子
5 月 10 日 JAFS 枚方・寝屋川合同地区世話人会開催
6 月 1 日 第 2 回 JAFS 枚方・寝屋川合同地区世話人会開催
7 月 7 日 枚方寝屋川チャリティーティーサロン開催
参加者 36 名
お話：ネパール留学生 3 名
於：サンプラザ生涯学習市民センター第 3 集会
室
8 月 25 日 2024 年度第 1 回枚方地区世話人会開催
9 月 29 日 第 2 回枚方地区世話人会開催
10 月 20 日 サブリ村野 NPO フェスタ 2024 参加・出展
於：サブリ村野
ネパールへ井戸を贈ることをめざして活動を行った。

【寝屋川】 笠谷正博、根津千枝子、畠山ひろみ
5 月 10 日 枚方・寝屋川地区合同イベント実行委員会
於：枚方サンプラザ
6 月 1 日 枚方・寝屋川地区合同イベント実行委員会
於：枚方サンプラザ
7 月 7 日 枚方地区・寝屋川地区合同チャリティー
ティーサロン
「私たち、なぜ日本に！ 留学生として日本で
くらして」
大学や専門学校で栄養学を学んでいる 3 名の
ネパール留学生によるお話やネパールの踊り
の披露
参加者 36 名 於：枚方サンプラザ
10 月 5 日 地区世話人会 市民活動センター
(土)
11 月 9 日 第 21 回市民活動センターふれあいフェスタ
(土) 展示参加 於：寝屋川市市民活動センター
11 月 30 日 第 15 回ねやがわ多文化フェスタ 実行委員
(土) 参加 於：寝屋川市市民会館
3 月 9 日 地区世話人会 於：市民活動センター
(日)
以上の活動よりネパールへバイオガスピラント 2 基の支援を
行った。

(5) 第 3 エリア

【なにわ西】 沖本然生・齋藤公代・伊藤 勝・新羅和子・篠塚
達朗・風早茂都子・風早正夫・鳥居京子・西田倫子・唐木裕司
【総括】
今期は、地区会を 10 回開催。イベントは、なにわ西地区会主
催が 3 回、チャリティーライブ&マルシェ in 生駒に出店、ま
たアジアンチャリティーフェスティバルに広告を掲載し出店
した。地区会のイベントは引き続き、沖本さんの大阪おもしろ
ウォーク、歴史散歩等を行った。
2024 年度(4 月～翌年 3 月) 開催場所 JAFS 事務局

IV. 普及啓発事業

4月9日	地区会開催	9名出席
5月21日	地区会開催	6名出席
6月20日	地区会開催	5名出席
7月9日	地区会開催	6名出席
9月8日	「比叡山をめぐる～ケーブルとロープウェイで比叡山横断～」参加者7名	
9月10日	地区会開催	5名出席
10月8日	地区会開催	6名出席
10月13日	チャリティーライブ&マルシェ in 生駒 「なにわ西地区会」として出店	
11月12日	地区会開催	7名出席
	・10/13のチャリティーライブ&マルシェ in 生駒になにわ西地区会として出店。その収益の一部をネットワークセミナー支援会に5000円寄付。	
12月20日	懇親会北新地「ほのか」	
12月22日	アジアンチャリティーフェスティバルになにわ西として出店	
1月15日	地区会開催	5名出席
2月4日	地区会開催	7名出席
3月11日	地区会開催	7名出席
3月29日	「近江八幡一八幡堀の屋形船から桜を見る」実施	
	実施	6名参加

主な活動者：沖本然生・齋藤公代・伊藤 勝・新羅和子・篠塚達朗・風早茂都子・風早正夫・鳥居京子・西田愉子・唐木裕司

【大阪なにわ南】中西豊次、出口貴之、木泰輔、實清隆
生活介護施設ハビネスノアノア（大阪市平野区）に一昨年度オープンしたノアノアカフェを拠点とするイベントを今年度3回開催し、地元住民や多くの子どもたちにも参加いただき地域に開かれた活動を実施できた。

4月6日	なにわウオーク（平野区編） 「1200年連続と続く歴史と文化の環濠自治都市平野郷巡り」 大阪歴史案内人 沖本 然生（おきもとぜんしょう）さんによるウオークの後、ノアノアカフェにてランチ懇親会 参加者：29名	
11月2日	第9回ノアノアカフェスタ さくらいりょうこさんによる心揺さぶる講演会&オカリナ演奏 参加者：約50名	
12月7日	第10回ノアノアカフェスタ ノアノアカフェクリスマスパーティー 内容：京都洛西教会 柳井 一朗牧師によるお話「クリスマスって何」 アトラクション・ゲーム大会 参加者：10名+子ども多数	

《定例世話人会》毎月ノアノアカフェにて開催。

（6）第4エリア

【河内長野・大阪狭山市】渡邊喜久次、新谷百代、丸井和子

10月21日	モダカにて地区会開催	5名参加。
2月22日	河内長野ボランティアフェスティバルに参加 踊りと展示で JAFS を紹介	

【松原地区】橋本末子、谷岡康男

地域に住んでいる外国にルーツを持つ子どもたちの交流や学び

を通し、多文化共生社会を目指して活動

4月20日	カラフルキッズ（ベトナムのことを知ろう） 場所：はーとビュー 参加者：47名（子ども26名、大人21名）	
5月18日	カラフルキッズ（ブラジルのお菓子作り） 場所：はーとビュー 参加者：99名（子ども79名、20名）	
6月15日	カラフルキッズ＝レインボーひろば（障害者団体） 場所：松原市立布忍小学校 参加者：55名（子ども26名、大人29名）	
7月20日	カラフルキッズ（ちがいとのおなじ） 場所：はーとビュー 参加者：34名（子ども19名、大人15名）	
9月21日	カラフルキッズ（ネパールの文化や生活を知ろう） 場所：はーとビュー 参加者：35名（子ども15名、大人20名）	
10月19日	カラフルキッズ＝レインボーひろば（命の大切さを学ぶ） 場所：はーとビュー 参加者：58名（子ども28名、大人30名）	
12月16日	松原ボランティアまつり JAFS 活動紹介パネル展示	
12月21日	カラフルキッズ（ブラジルにルーツのある人の話） 場所：はーとビュー 参加者：26名（子ども16名、大人10名）	
2025年	カラフルキッズ（ビデオ学習 ちがいを分かりあう）	
1月18日	場所：松原市立布忍小学校 参加者：20名（子ども10名、大人10名）	
2月15日	カラフルキッズ（カラフル茶話会ゲストを囲んで） 場所：はーとビュー 参加者：21名（子ども11名、大人10名）	
3月17日	カラフルキッズ（さよならカラフルキッズ） 場所：はーとビュー 参加者：33名（子ども19名、大人14名）	
	★スタッフ会議は毎月開催（松原総合福祉会館） ★松原ボランティア連絡会月例会出席 ★レインボーひろば：松原市内他団体との交流 3月をもって「カラフルキッズ」の定期開催は終了、今後は適時に開催	

【富田林】渡辺治彦、古川光照、岡本修、真嶋克成

毎月末日曜	滝谷不動尊縁日に合わせて古着バザー出店 （7, 8, 9月は酷暑にて休止） 場所：近鉄・滝谷不動駅前 参加者：2～3名	
12月14日	富田林地区役員会 場所：千代田駅前 参加者：4名	
2025年	金剛山・雪中登山	
2月11日	場所：金剛山 西ルート 参加者：3名	
3月8日	寺内町・難めぐり 場所：富田林市 寺内町界限 参加者：12名	

（7）第5エリア

【京都・宇治・八幡】辻賢二、福井えり、柳井一朗、安宅義人、福川肅、毛利吉男、岳山修

フィリピンとスリランカの子どもたちの教育支援・生活改善を目的に下記の活動を実施した。

IV. 普及啓発事業

4月11日	第12回 アジアを知ろう学習会 『フィリピン 子どもを取り巻く現状 ～あなたの協力が私達の未来に～』 講師:ジーナ A. ヤップ氏 場所:洛南教会 参加者:7名
5月5日	中山寺こども祭り出展参加 場所:中山寺 参加者:3名
5月27日	京都地区会 場所:洛南教会 参加者:7名
6月29日	京都チャリティウオーク 参加者:17名 『京の厄除け参り 北野天満宮界限』 ガイド:小島 由照氏
9月9日	京都地区会 場所:洛西教会 参加者:5名
9月28日	京都チャリティミニコンサート 『ランチとバイオリンと歌のひととき』 演奏:大日方 章代氏 場所:バザールカフェ 参加者:26名
10月7日	京都地区会 場所:洛南教会 参加者:7名
11月3日	Kokoka オープンデイ 2023 活動紹介ブース出展 場所:京都市国際交流会館
11月10日	京都地区会 場所:洛西教会 参加者:7名 洛西教会タ礼拝 講師:村上公彦創設者 場所:洛南教会 参加者:20名
11月23日	バザールカフェ フィエスタ出展・活動紹介 場所:バザールカフェ
11月～	シュートレンで子どもの教育支援！
12月	協力 325 口
12月22日	第9回アジアンチャリティフェスティバル出展 場所:大阪市国際交流センター
1月25日	JAFS 地区世話人・会員新年会 担当地区 場所:洛西教会 参加者:20名
2月13日	京都地区会 場所:洛南教会 参加者:6名
2月22日	京都地区会 場所:京都教会 参加者:8名
3月1日	第7回竹中真京都チャリティコンサート あなたの支援で子ども達が変わる！ 場所:京都教会 参加者:70名

主な活動者:辻賢二、金井英夫、福井えり、柳井一朗、安宅義人、井上勇一、玉城博和、木川喜代司、苫廣啓史、他谷尚、福川肅、毛利吉男、岳山修

(8) 第6エリア

【西宮】平山隆史

2025年	第29回西宮国際交流デーに参加
2月8日	活動パネル展示、アジア雑貨等販売 於:フレンテ西宮 4&5 階

【三田】堀 正之

11月23日	第27回フレンドシップディインサンダ参加 場所:まちづくり協働センター (キッピーモール 6 階)
--------	---

(9) 第7エリア

【奈良市】渡邊瑠璃子、伊藤誠、福岡名津子

5月6日	つな GO! アジア part2@ならみんぱく
------	-------------------------

5月29日	場所:大和郡山市民俗公園 参加者:一般市民 奈良地区会例会
9月29日	場所:奈良市奈良基督協会 参加者:6名 奈良地区会例会 場所:奈良市奈良基督協会 参加者:6名 会長が伊藤誠から和田達生に交代 主な活動者:渡邊瑠璃子、伊藤誠、和田達生、福岡名津子 古本靖久、古本みさ

【生駒市】野池徹

4月5日	JAFS セミナー打ち合わせ、PT チェック
4月20日	ららポート会議
2月9日	ららまつり

場所:北コミュニティセンターISTA はばたき

主な活動者:野池徹、山下良一、有山加代子、鈴木信克、山田穂積、伊藤ヒサ

(10) 第8エリア

【堺市・高石市】佐藤満昭

毎月不定期	佐藤手芸教室バザー 個人宅にて、教室メンバー、知人相手に小規模バザーを不定期に開催し、収益は適時 JAFS へ寄贈した。
2025年 1月10日 ～26日	第6回チャリティ気になる玉手箱展(画廊いろはに北野庸子様))を支援した。 新春チャリティ展として連続26年目。 玉手箱展企画者石橋修氏の提案で「能登震災被災者支援」プロジェクトへバザー用品を寄贈した他、来場者からの寄付金が多数集まり、能登地震被災者支援として寄付した。

(11) 第9エリア

【備前市】鳥居建十

岡山県日生地区会:アイビー歌声サロンを月1回開催。 地元の人達との交流を深める
2024年 4/4、5/2、6/18、7/4、8/20、9/4、10/24、11/25、12/23
2025年 1/20、2/17、3/5
延べ人数 150 名

【広島】宇田和博

自主的な奉仕活動として、近隣の神社境内の清掃、収集した古切手、外国のコインを本部に送付した。

(12) 第10エリア

【関東活動委員会】川崎隆二

- ・ 全員参加と満足度の向上:参加者の偏りの解消は難しかったが、できる人ができることを全力で取り組んだ。コンサートの開催や能登半島地震の支援を通じ、共有できる体験を広げることができた。
 - ・ 新規活動メンバの獲得:新規参加者とのつながりを深める試みが実り、一般の方がレギュラーメンバとして参加、会員として仲間になってくださった。また、委員会メンバ以外の JAFS 関東地区会員の参加も見られた。
- 委員会開催:7回
○支援プロジェクト:日印友好学園パダトラ小学校の5人の

IV. 普及啓発事業

里子支援、瀬田敦子コンサート基金、能登半島被災地の支援
○主な活動

- 1) おさんぽウォーク(原さん宅/高岸さん宅/湯川理事長懇親会/町田市国際版画美術館/グローバルフェスタ見学/Charity Party/武蔵一宮氷川神社と大宮公園/八重洲いしかわテラス) : 4/20, 6/22, 7/29, 8/17, 9/28, 12/14, 2/22, 3/22 延べ参加者 44 名(心のウォーク 16 名)
 - 2) チャリティウォーク・ぞうすいの会(高輪・泉岳寺) : 11/30 実施、参加: 8 名(内、心の参加: 2 名)
 - 3) 海ごみ拾い(ブルーオーシャン作戦) : 11/9 参加: 5 名(一般参加 2 名)+OSG 関係者。
 - 4) 能登半島支援活動(国内ワークキャンプ) 5/25・26 参加: 5 名、-能登町白丸の遍照寺(お寺の祭壇や家財の運び出し)、-珠洲市の被災住宅(使える畳や家財の運び出し・搬送)、金沢市内での観光も実施。能登の現実を肌で感じ、被災地の皆さんと触れ合うことは、現地でしかできない貴重な経験だった。参加できないが貢献したいと、多額のご寄付を頂いた。会員からも問合せが寄せられ、活動をアピールできた。
 - 5) 竹中真能登支援チャリティコンサート(久我山教会): 来場者: 49 名、大変満足: 70%、満足: 30%。収益寄付先: JAFS 能登地震被災者支援募金、災害 NGO 結
 - 6) 能登半島支援チャリティコンサート(輪島市・穴水町) ※本部の施策に参加
【参加者】関東メンバ 3 名、一般参加 1 名
【実施場所】3/15 輪島市 宅田第二仮設団地 集会所(参加 16 名/142 世帯)、輪島中学校 避難所(参加 6 名/避難者約 50 名)、3/16 穴水町甲地区兜公民館(参加 30 名/約 40 世帯) 仮設住宅・避難所で暮らす住民の皆さんに、ひととき温かい時間間を届けることができた。
 - 7) 瀬田敦子オンラインサロン 会員数: 40→35 名(目標 40 名)、毎月の音楽配信、Zoom 交流会毎月開催。繋がりを維持・拡大できた。
- 主な活動者: 岩田芳晴、端無勝、田中壽美子、高岸泰子、長谷川雅子、佐藤理香、田中政直、原京、森山涼子、本間一将、横田恭子、鈴木貢、川崎隆二

3. 広報

(1) アジアネット

アジア各地で様々な支援活動を展開している本会の事業を、年 4 回発行の会報「アジアネット」誌面で紹介した。会員や寄付者などの支援者に「アジアネット」を送付し、支援に対する報告をするとともに、新たに本会を知る人を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開スペースに向けても送付した。またホームページでも広く公開した。

《アジアネット発行実績》

- ◆158 号 2024 年 7 月発行 (32 ページ、4,300 部)
 - 表紙写真 卒業記念に校庭に植樹するインド・コスモニケタン学園の卒業生
 - 巻頭言 新しい地球環境を創る人づくり(村上創設者)
 - 特集 女子の人権 農村から高めたい
 - ネパールに地域の防災拠点完成
 - ネパールの農村の職を変える栄養学
 - バングラデシュの少数民族の村を訪ねて
 - 井戸寄贈報告

- 2023 年度の活動報告/2024 年度の実施予定
- 水、貧困対策、環境、子ども、国際交流、罹災者支援、国内での普及啓発
- 2024 年度 社員総会報告
- JAFS プラザ 国内の活動
- JAFS のセミナーから 外国人家事労働者
- イベントカレンダー
- 新入会員紹介・領収報告
- 「活躍するアジア人」
- 環境コラム、編集後記

◆159 号 2024 年 10 月発行 (24 ページ、4,300 部)

- 表紙写真 ネパールの土肌むき出しの急斜面で、日本の技術を活かして土砂災害対策工事
- 巻頭言 海外支援経験で国内若者育てる(端無理事)
- 特集 災害から守り産業育てるネパールの村
- 学生運動から政権崩壊したバングラデシュに大洪水
- 植林ボランティアでネパールと交流
- フィリピン・パンダ環境保全へ青少年サマーキャンプ
- 井戸を求めるカンボジアの村の水事情
- 井戸寄贈報告
- JAFS プラザ 国内の活動
- イベントカレンダー
- 新入会員紹介・領収報告
- JAFS 新役員紹介
- 晴天下あつい自然体験「土と水と緑の学校」
- 環境コラム、編集後記

◆160 号 2025 年 1 月発行 (32 ページ、4,300 部)

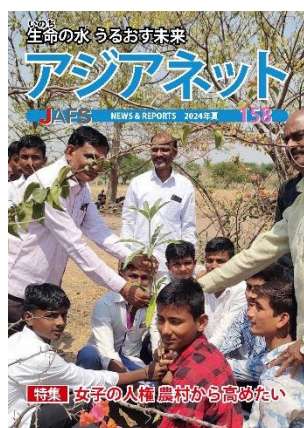
- 表紙写真 ネパール・カトマンズを襲った豪雨により市街地が水没
- 巻頭言 世界もアジアも JAFS も変わる(佐野理事)
- 特集 温暖化・気候変動と向き合う
- アジア国際ネットワークセミナー
- 養鶏で女性の力を伸ばすスリランカ
- 井戸寄贈報告
- 3 カ国でブルーオーシャン作戦
- 日本語スピーチコンテスト
- 能登被災地に憩いを届けた
- JAFS プラザ 国内の活動
- イベントカレンダー
- 新入会員紹介・領収報告
- 寄付領収証についてのお知らせ
- 「活躍するアジア人」
- 環境コラム、編集後記

◆161 号 2025 年 4 月発行 (28 ページ、4,100 部)

- 表紙写真 インド・マハラシュトラ州の「南の聖地」とされるマルカデシュワール寺院で礼拝儀式に参加するパダトラ小学校の子どもたち
- 巻頭言 創設者村上氏と出会い再会(柳井理事)
- 特集 教育から取り残される少数民族
- 教育支援受け「次は私が支える」フィリピンの子
- コミュニティ開発学びアジアに友情
- JAFS プラザ 国内の活動
- 「水」写真コンテスト入賞作品
- 井戸寄贈報告
- 井戸を使い続けるメンテナンス
- イベントカレンダー
- 新入会員紹介・領収報告

Ⅳ. 普及啓発事業

- JAFS 公式 LINE を始めます！
- マンスリーサポーターが始まります
- フィリピン台風被災地支援
- 環境コラム、編集後記



第 158 号



第 159 号



第 160 号



第 161 号

(2) ホームページ／SNS

ホームページでは、年 4 回発行の会報よりも細かな時間スパンでタイムリーに情報を発信した。特に本会のイベント情報やニュース、寄付募集など、発信に迅速性を要する記事を逐次掲載した。本会と未だ接点がない人も情報に触れる可能性を持つホームページの特性を活かし、活動状況を広く知ってもらうことにより、新規の会員・寄付者・イベント参加者の獲得にも貢献した。

また、フェイスブックやインスタグラムなどの SNS や YouTube によっても、本会の活動状況、ニュースやイベント情報などを、随時発信した。

<ホームページ> <https://jafs.or.jp>

<フェイスブック> <https://www.facebook.com/JAFS.NGO>

<インスタグラム> https://www.instagram.com/jafs_ngo/

<YouTube>

<https://www.youtube.com/channel/UClg56EEemMuMlFJyvRHxuEuQ/featured>

4. プロジェクト支援会（ファミリーグループ）

(1) ぞうすいの会

（世話役：風早茂都子）

「ぞうすいの会」の「ぞうすい」は、「雑炊」「増水」「贈水」の意味をかねている。質素な雑炊をとることで自分たちの過食や健康を見直すとともに、「ぞうすいの会」への参加費を積み立てて、アジアの人々に井戸などを贈り、衛生的な水の供給を行ってきた。例年、毎月 1 回（年間 11 回※8月休み）開催してきた。JAFS スタッフやゲストスピーカーから各国でのプロジェクトや各国の文化などについてのお話を聞きながら、季節の香り高い雑炊をいただいている。今後も、会員のみなさまの深いご理解と温かいご支援を得ながら継続していきたい。

- | | | | |
|-----------|---------|----------|--|
| 4 月 9 日 | 第 411 回 | 参加 12 名 | スピーカー: 川本 裕子スタッフ
マレーシアスタディツアーほうこく |
| 5 月 14 日 | 第 412 回 | 参加 12 名 | スピーカー: 渡辺治彦理事
ネパール報告 |
| 6 月 11 日 | 第 413 回 | 参加 10 名 | スピーカー: JAFS 関東川崎隆二さん(オンライン)
能登半島地震被災地支援報告 |
| 7 月 9 日 | 第 414 回 | 参加 15 名 | スピーカー: JAFS 高槻会員 猪口 薫さん
トラックピアニスト体験記 |
| 9 月 10 日 | 第 415 回 | 参加 11 名 | スピーカー: 在日ネパール人カンデル・グルデウさん
日本で感じたこと |
| 10 月 8 日 | 第 416 回 | 参加者 14 名 | スピーカー: 岡本 佳子スタッフ
スリランカ・サルボダヤ訪問報告 |
| 11 月 12 日 | 第 417 回 | 参加者 11 名 | スピーカー: 日本語教師 森 康員さん
私たちのボランティア活動 |
| 12 月 10 日 | 第 418 回 | 参加者 18 名 | スピーカー: インターン生 関学大 樋口 恭香さん
第 30 回アジア国際ネットワークセミナー参加報告 |
| 2025 年 | 第 419 回 | 参加者 12 名 | スピーカー: 渡辺治彦理事&川本裕子スタッフ
バングラデシュ洪水被災支援視察報告 |
| 1 月 14 日 | 第 420 回 | 参加 18 名 | スピーカー: 柿島 裕スタッフ
シンガポール訪問報告 |
| 2 月 4 日 | 第 421 回 | 参加 13 名 | スピーカー: 渡辺治彦理事
能登半島地震被災地支援報告 |

(2) アジア井戸ばたサロン

（代表 澤村和子 顧問 小原純子）

『1990年「WINA2000」アジア国際女性会議』(小原純子JAFS 副会長 企画実施)がインドネシアで開催された。これを機に 1992年アジアの女性の地位向上に寄与するという目的で「アジア井戸ばたサロン」の活動を始めた。

「和」の心を基に、和紙を中心としたサロン独自の手作り作品、その他工芸品作りなどに力を入れ活動を続けている。

作品も多彩となり、本年度も目標達成のために設立された「水がめ基金」から「アジア里親の会」に例年通りインド「パダトラ小学校」子ども達の就学支援をした。さらに毎年おこなわれている「アジア国際ネットワークセミナー」(AINS)での参加者プレゼント用

Ⅳ. 普及啓発事業

の手作り作品の制作を続けて、今年度はスリランカ開催への協力を行った。

<活動>

- ペーパークラフトを主に手作り工芸品の製作
(季節のカード・色紙・メモ帳・箸袋・香袋など)
- ・毎週水曜日 午後1時～3時

(3) スリランカ・サルボダヤ友の会

(代表 小澤 勇)

スリランカ現地提携団体 NGO「サルボダヤ」との絆を深め、農村開発運動を支援し活動の輪を広げることが目的とする。スリランカを知り、楽しむイベント・講座等を開催や、活動支援のため、バザー等に出展や様々なボランティア活動をおこなっている。今年度は活動を通じ、井戸や植林、女性の自立支援等のプロジェクトを支援した。

- 10月5日 スリランカサルボダヤ友の会 総会
スリランカ活動訪問報告
場所:JAFS 会議室 参加者:6名
- 12月9日 例会 場所:JAFS 会議室 参加者:4名
- 12月22日 第9回アジアンチャリティフェスティバル出展
場所:大阪市国際交流センター 参加者:8名
- 2月24日 例会 場所:JAFS 会議室 参加者:4名
- 3月15日 第31回スリランカ講座
『スリランカの文化について
食文化・服装・お祭りなど』
ゲスト:マルワッタ・パティランナハルゲ・
サンドウニカ・デビンディさん
場所:JAFS 会議室 参加者:21名

(4) 日印友好学園支援会

(支援会会長 柏木道子)

2024年度も、日印友好学園コスモニケタンの運営を支援した。支援会のメンバーも高齢化しているため、活動の終息をそろそろ考える時期に来ている。ただ学園の財政的基盤がなかなか安定しないため、どのように支援を継続していくことができるか検討中。支援会の会合は、現地とオンラインで1回開催した。

(5) JAFSネパールへのかけ橋

(代表 岡田光浩 書記 渡辺治彦)

ネパールをこよなく愛する者を参加資格とし、JAFSのネパールでの活動の支援を目的とし2000年に発足。活動のテーマは、「ネパールの子供たちの支援」。2003年度より、冬季ワークキャンプ(バイオガス建設ワークキャンプ)の自主活動を継続し、バザーによる資金調達・現地でのボランティアワークなどを行っている。原則として、毎月1回(第2土曜日17時～)例会を行ってきた。

今年度の活動内容は、ネパール留学生との交流を目的とした、交流会及び、日本の良さを感じてもらおうと岐阜旅行を実施と、能登半島地震に対する炊き出しボランティアの実施を行うなど精力的に活動を実施しました。また、ネパール支援のための活動として、寝屋川まつりをはじめとする各種バザーの出店により31万円程度の収益があり、ネパール支援へつなげました。

栄養士育成のために来日しているネパール人メンバーのサポートや交流を実施し、広くネパールに興味を持っていただけに、引続き魅力ある活動となるように検討を進めていきたい。

- 4月6日 懇親例会花見会「宇治」 (18名程度)
- 4月16日 例会
- 5月11日 例会
- 6月15日 例会
- 7月13日 例会
- 8月の例会休会 土水支援へ
- 8月24-25日 寝屋川まつり出店
- 9月7日 例会
- 9月28-29日 ネパール留学生との懇親旅行(岐阜へ)
- 10月の例会休会 能登支援へ
- 11月3日 東大阪国際フェスティバル出店 (8名)
- 11月の例会休会 能登支援へ
- 11月24日 枚方多文化フェスティバル出店 (7名)
- 12月の例会休会 能登支援へ
- 1月18日 例会
- 2月1日 例会
- 3月14日 例会

(6) PAON

(代表 谷阪洋子)

アジア家庭料理教室の参加者の中から有志のメンバーが集まり、料理を活かしたボランティア活動をおこなっている。アジア各地の料理を通じて、各地域の文化を体験・理解することと、その活動の中で必要とされる支援をおこなっていく事を目的としている。

アジアで安全な飲料水を必要としている地域への支援を目標に活動した。

(7) JAFSオアシス会

(代表 ジャミラ ウライム)

オアシス会はアジアの中に“理解と協力と連帯”の輪を広げるというJAFS基本理念をすすめていくために、シルクロードを中心に相互の国の文化や歴史を学び、お互いに尊重し、理解し合う場を創り出すことを目的とする。今年度は、各地の国際交流イベントへの出演を通じて、文化の紹介をおこなった。

(8) アジアネットワーク奨学会

(代表 古賀 旭)

アジアネットワーク奨学会は、専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく貢献するとみなされる若手の人材育英資金(奨学金等)を支給するための支援会である。

2024年度は、フィリピンのアジア社会科学院(ASI)にて行われている夏期の地域開発コース(2ヶ月間)に、アスタ パルサカデ(インド、SPARSH)が参加できるよう支援をおこなった。

(9) ネパール地域医療支援会

(担当 小原純子副会長)

ネパールの農村エリアの地域医療向上及び母子保健向上をサポートする支援会。

山間地の女性たちの生理用布パッドを手作りで作る活動を引き続き実施し、在宅などでの作成によりネパールで現地の女性にナプキン作成および講習会を実施できる準備を行った。支援金のために引き続きプルトップ回収をおこなった。

IV. 普及啓発事業

(10) JAFSパンダン交流会

(代表 中谷 誠)

フィリピン アンティケ州パンダン町の飲料水支援事業を契機につながった、パンダン町民との継続交流及び、その機会に知り合った障がい者の人たちとの支援・交流を継続することを目的に活動。融資メンバーが現地を訪れ、今後の活動内容や支援について話し合った。

(11) JAFSバーラト会

(代表 巽 正憲)

現在、対面での例会は難しく、当面配信による情報共有をしている。

インドの最新情報、国内のインドに関連するイベント、最新インド映画上映など LINE を通じてバーラト会会員に定期的に配信している。今、インドに滞在中の会員が帰国後、彼の報告会を企画中。

(12) JAFS歌声サロン

(代表 風早茂都子 演奏 鳥居京子)

ピアニスト鳥居京子の生伴奏をバックに、その場でリクエストをし、好きな歌を歌い腹式呼吸法で健康増進にもなる。日頃のストレスを発散しながら、国際貢献をする自主活動グループ。只今、休止中。

(13) JAFSいのちの会枚方

(代表 明見睦子)

インド タミルナドゥ州の HIV AIDS に苦しむ1家族への支援をおこなった。

現地支援団体が本事業に対して別パートナーと実施することを決定したため JAFS よりの支援を本年度で終了することとなった。そのためのいのちの会の活動の役割は 2024 年度で終了した。

(14) JAFS歩く会 “道楽の集い”

(代表 石原基義、大本和子)

アジアフレンドシップ夢基金を支援する目的で 2021 年にスタートした本会は、2024 年度は 8 回実施し、計 76 名の参加者があった。2025 年 3 月の例会で 33 回目となった。参加者の固定化傾向があったが、新たな参加者も得ることができた。ウォーキングを楽しみながら、夢基金への貢献をおこなった。

(15) JAFSハルハロ有志会

(代表 橋本 末子)

ハルハロの活動は、1992 年 10 月に発足し 2014 年月に活動に一旦区切りをつけたが、ハルハロ支援活動の一つであったフィリピン里子のマリー アンさんから大学進学の実支援要請を受け、奨学金支援を行うことを決定。マリーアンさんの大学での学びを見守ると共に有志メンバーの交流を行った。2024 年 9 月大学卒業、奨学金支援活動を終了。

4 月 16 日例会 ASI 副学長デニス氏より近況報告

5 月 17 日例会 マリーアンさんから近況報告

9 月 25 日例会 マリーアンさん大学卒業決定報告

11 月 22 日例会 ASI デニス氏より卒業報告

マリーアンさんへ卒業祝いメッセージカード

1 月 17 日 例会 ・ハルハロ新年

・卒業祝い Zoom ミーティング

(マリーアンさん、ASI 副学長デニス氏、
現地スタッフ 2 人)

今後のハルハロ活動は一旦終了し、随時交流会を開催する予定。

(16) JAFS国際ネットワーク支援会

(会長 小原 純子 代表幹事 村上 公彦)

JAFS の基本柱であるアジア国際ネットワーク活動を持続可能なものとする為の維持推進に特化した資金調達の方策として会員有志によるネットワーク支援会を 2023 年 7 月に設立した。

3 月末現在の会員数 43 名。

2024 年度は 10 回の会合を開き、10 月スリランカにて開催された AFS ネットワーク会議開催費用の一部を支援した。

5. 関連市民活動

(1) 関西ナショナル・トラスト協会

(代表 鳥居 京子)

事業の内容: 次世代に残す自然文化(京都市南丹市美山町にある「美山楽舎」の活用、新淀川河川敷での環境活動(しじみ採り)などを通じて、地方の活性化、自然・文化環境の保全、それらと結びついて都市部の青少年の育成を行うことを目的とする。

(1) 自然環境保全事業

内容: コロナ禍前まで事務局として参加し、再開されたイベントに活動参加した。

(2) 保有・管理財産活用事業

内容: 京都府南丹市に保有する「美山楽舎」の土地・建物を会員及び一般に有料で貸し出し、築 160 年の古民家、周辺の圃場での体験を通してナショナル・トラスト運動の意味を考えてもらう。

美山楽舎での理事会の開催を増やし、会員の利用増を図ると同時に、周辺整備や今後の有効活用のための検討・試行を行った。

(3) 歴史環境保全事業

内容: 歴史・文化イベントへの参加や企画を実施。

美山で「美山自然塾」を開催。一般参加者を募り、地元のイベントに参加し、地元住民との交流を図る。

6/15-16 第 1 回 KANNTA 自然塾「ホテルのタベ」

7/20-21 第 2 回

8/11-12 第 3 回 「流しそうめん・ペットボトルロケット制作」

9/14-15 第 4 回 「ブルーベリー狩」

10/26-27 第 5 回

11/23-24 第 6 回

12/1-2 第 7 回 「茅葺きの里 防火放水訓練見学」

2/11 東大寺竹送り KANTA 会員参加者: 1 名

IV. 普及啓発事業



第9回アジアン・チャリティ・フェスティバルの様子



アジア市民大学第4回の講師元朝日新聞 加藤千洋氏を迎えて



第5回日本語スピーチコンテスト入賞者と参加者の皆さん



法人賛助会にて開催した日銀大阪支店長 中島氏の卓話会



第4回「水」写真コンテスト 阪急うめだ本店での展示審査会



第41回土と水と緑の学校 閉校式

IV. 普及啓発事業



第 31 回スリランカ講座で文化に親しむ



中山寺子どもフェスティバルにて



JAFS 歩く会“道楽の集い”にて池田の自然を楽しむ



ハルハロ有志会 支援するフィリピンのマリーアンからの大学卒業報告



寝屋川まつりにて ネパールへのかけ橋



北河内緑とふれあう会 15 年活動感謝会



ぞうすいの会 来日してのからの話をする外国人ゲスト



北河内緑とふれあう会 終了にむけての話し合い

Ⅳ．普及啓発事業

Ⅳ－B．環境保全・環境教育（国際グリーンスカウト活動）

（１）土と水と緑の学校

次世代の子どもたちが、地球の基本である土、水、緑の自然の大切さ・役割を体で感じ取って学ぶ自然環境教育プログラム。山と川と海に囲まれた和歌山県新宮市高田で、子どもたちがリーダーと共に各寺子屋を例年開催し、昨年まで３年間、新型コロナウイルス感染拡大のため中止したが、今年度も引き続き第４１回として開催した。

期間：2024年８月５日（月）～９日（金）４泊５日

開催場所：和歌山県新宮市 高田地区一帯・那智勝浦町宇久井

本部：高田中学校

共催：新宮市・新宮市教育委員会、関西教育旅行株式会社

参加者数（小学３年生～中学３年生）：45名

ジュニアリーダー（高校生）：5名

リーダー（大学生・社会人）：8名

本部ボランティア：64名

講師：6名

内容：土、水、緑、心の各授業を３班体制で実施した。

また振り返りのフォロー研修としての「秋のキャンプ」を大阪と新宮で実施した。

●大阪秋のキャンプ

開催日：11月17日（土）

開催場所：JAFS&靱公園

参加者：4名＋リーダー5名＋指導者1名＋スタッフ1名

合計11名

●新宮秋のキャンプ

開催日：11月30日（土）・12月1日（日）1泊2日

開催場所：新宮市高田地区グリーンランド&ビジターセンター

参加者：13名＋リーダー7名＋講師・指導者2名＋ボランティア10名＋スタッフ1名 合計32名

（２）各部会活動

国際グリーンスカウト運動とは「Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、地域で行動を）」をモットーとした「地球市民による地球環境保全活動」を目指す本会提唱のプログラムである。AFSの海外ネットワーク（インド、スリランカ、フィリピン、ネパール、タイ、インドネシア）を通じて国際的に展開している。国内でも、このモットーに基づき、各地でグリーンスカウト隊が活動を行なっている。

◆国際グリーンスカウト吹田◆

（主なメンバー：杉原貴、雨森清忠、扇谷和幸）

地球規模で環境保全を考え、そのために自分たちの住む地域で出来ることをやっというグリーンスカウトの理念を実現するために、2001年に京都府美山町で行われたグリーンスカウトの国際大会で知り合ったメンバー同志で活動チームを2002年に結成。環境保全活動およびその教育の持続と実行のため、2003年より毎月第1又は第2土曜日に吹田市の糸田川の清掃を月1回行っている。今年は、12回で48人の参加して以下の活動を実施した。

<糸田川清掃、環境保全活動>

毎月一回、基本的に第一土曜日に実施。

参加人数は2～7名。合計48名

実施日：4月6日4キロ、5月11日5キロ、6月1日7キロ、7月6日5キロ、8月3日6.5キロ、9月7日7.5キロ、10月5日2キロ、11月9日3.5キロ、12月7日9キロ、1月18日10.5キロ、2月1日7.3キロ、3月1日5キロ 計12回活動計72.3キロのゴミを収集した。

◆AFS ブルーオーシャンレンジャー◆

プラスチックごみを始めとするごみ問題が、各地域の生活環境を不衛生にするのみならず、地球規模でも海洋プラスチック汚染など大きな環境問題になっており、また海洋へのプラスチック流出量上位には、アジアの国々が多く入っている。この現状の中、AFSネットワークを生かして、日本を含むアジア諸国が共にごみ問題に取り組む「AFSブルーオーシャンレンジャー」活動を行っている。

11月9日に、大阪（約110人）と東京（約50人）、フィリピンのソルソゴン州マトノグ（約100人）、アンティーク州バンダン（約100人）、インドネシアのアチェ州バンダアチェ（約140人）、タンゲラン州南タンゲラン（約390人）の3カ国6地域で、同日に海辺などのクリーン活動を行った。当日活動中や活動後には、Facebookやオンライン交流により、各地域の活動の様子を動画や写真で紹介し合い、相互に刺激を受け活動意欲を高めた。



3カ国各地域のブルーオーシャンレンジャー活動の様子（11月）



グリーンスカウト吹田が毎月実施している糸田川清掃活動にて集めた川から集めたゴミ

IV. 普及啓発事業



第1エリア高槻地区 “みんなで音楽を楽しもう”開催



第2エリア 枚方・寝屋川地区 ネパール留学生に話を聞く会



第3エリア なにわ南地区ウォーク



第4エリア 富田林地区 ひな巡りを開催



第5エリア京都地区 公IV 京の厄除け参り 釘拔地藏



第6エリア 西宮地区 西宮国際交流デー参加



第7エリア 生駒地区



第10エリア 関東地区会 竹中真チャリティーコンサート開催

V. 運営管理

V. 運営管理

V-A. 社員総会

公益社団法人アジア協会アジア友の会第13回社員総会を下記の通り開催した。定款第16条の定めにより篠原会長が議長となり議事を進行した。現在の社員数185名の内、出席社員数115名（当日出席者・議決権行使提出者の合計）で、定足数93名を充足し総会が適法に成立していることを宣した。

- 日時：2024年6月8日(土) 14時～15時30分
会場：ドーンセンター（大阪市中央区）
議案：Ⅰ. 決議事項
第1号議案『役員の選任』の件
第2号議案『2023年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、同附属明細書及び財産目録の承認』の件
上記の決議事項に関して、異議なく承認された。
議案 Ⅱ. 報告事項
① 2023年度事業報告
② 2024年度事業計画について
③ 2024年度収支予算書について

V-B. 役員一覧

役 職	氏 名	経 歴
会長	篠原 勝弘	公益財団法人 CIESF 理事兼相談役、カンボジア代表、元 駐カンボジア特命全権大使
理事長	湯川 剛	株式会社 OSG コーポレーション 代表取締役会長・CEO
副会長	小原 純子	（一財）大阪男女いきいき財団 元理事長、現名誉顧問
	法花 敏郎	元 朝日ビルディング 社長
常務理事	吉田 俊朗	元 ユニチカ株式会社 監査役
理事	池田 直樹	弁護士法人あすなろ 弁護士
	市川 晃	税理士法人 AN d 代表社員 税理士
	井上 勇一	日本基督教団洛南教会 牧師
	上野 孝一	社会福祉法人寝屋川十字の園 理事
	沖田 文明	（特活）関西ナショナル・トラスト協会 副代表理事
	金井 英夫	元 IBM-Japan コンサルティング事業部 次長
	坂口 久代	関西イタリア語文化センター 代表
	櫻井 紘哉	元 株式会社三和銀行 管財部長
	佐野 光彦	神戸学院大学総合リハビリテーション学部 准教授
	實 清隆	奈良大学 名誉教授

V. 運営管理

	木 泰輔	エーゼル株式会社 代表取締役
	永島 智子	イオングループ労働組合連合会 会長
	玉城 博和	京旺株式会社 代表取締役／京都西南ロータリークラブ役員
	端無 勝	株式会社デュアルエデュケーション 代表取締役
	福澤 邦治	パナソニックグループ労働組合連合会 中央執行委員長
	藤原 正昭	医療法人浩治会介護老人保健施設大阪城ケアホーム 施設長
	松原 正	株式会社かんぼう代表取締役
	宮川 眞一	医療法人鶯友会 牧病院 診療部長・心療内科部長
	柳井 一郎	日本基督教団 洛西教会牧師
	米田 明正	株式会社グローアップ 代表取締役
	渡辺 治彦	株式会社 関電システムズ システムアーキテクト
監事	出口 貴之	株式会社宝屋 代表取締役
	毛利 吉男	株式会社カステロ 代表取締役
	山下 泰之	元 東邦金属 株式会社 常勤監査役

理事 26 名 監事 3 名 (2025 年 3 月 31 日現在)



第 13 回定期社員総会
専務理事退任のあいさつをする創始者村上公彦

V. 運営管理

本会の事業・活動は、理事会及び各常置委員会によって管理・運営されている。2024年度における理事会、各常置委員会の開催状況は以下の通り。

V-C. 理事会

(議長:篠原勝弘会長 湯川 剛理事長)

理事会: 5/21、9/30、12/7、3/7 (計4回開催)

臨時理事会: 6/14、7/23、8/26、9/5 (計4回開催)

V-D. 常置委員会

I. 公益目的事業I 開発支援事業委員会

開発支援事業の進捗状況の確認、課題提示、プロジェクト評価、報告などを実施。2025年度事業内容および今後の事業の方向性についての審議を実施。

委員長:松原 正 理事

副委員長:福澤邦治 理事

担当委員:玉城博和 理事、永島智子 理事

<事業内容>

1. 水事業
2. 子ども事業
3. 貧困対策事業
4. 環境事業

開催日:5月、9月、11月、1月、2月、3月 計6回実施

II. 公益目的事業II 国際交流事業委員会

国際交流事業の進捗状況の確認、報告などを中心に行なった。事業ごとに実行委員会を持ち、円滑にプログラム運営を実施。

委員長:端無 勝 理事

副委員長:佐野光彦 理事

副委員長(夢基金担当):坂口久代 理事

<事業内容>

1. 人材交流・育成事業
2. ネットワーク推進事業(アジア国際ネットワークセミナー、ユースサミット)
3. アジア・フレンドシップ夢基金

開催月:5月、9月、11月、2025年1月、3月 計5回

III. 公益目的事業III 災害罹災者に対する生活支援事業

今年度事業内容の以下1～6の支援事業進捗状況や対応について協議した。年度途中8月に発生したバングラデシュ東部水害に対する支援実施を9月に決定。また9～11月に発生したフィリピン連続大型台風被災地に対しても、現地から緊急支援依頼を受け、支援活動を進めることに12月に決定した。ネパール防災事業は外務省の日本 NGO 連携無償資金協力により実施しているため、密な状況確認を行った。

委員長:宮川真一 理事

副委員長:藤原正昭 理事

<事業内容>

1. ネパール防災
2. ウクライナ支援
3. 能登半島地震支援
4. ネパール・ジャジャルコット地震復興支援

5. バングラデシュ東部水害被災者支援

6. フィリピン台風被災者支援

開催月:9月、12月、1月 計3回実施

IV. 公益目的事業IV 普及啓発事業

事業項目別に担当理事を中心に委員会が開催された。

<事業内容>

1. 会員委員会

地区世話人とともに活動していく仲間(会員)の輪を広げる活動を推進した。

委員長:渡辺治彦 理事

副委員長:米田明正 理事

副委員長:木泰輔 理事

副委員長:井上勇一 理事

会員拡大・地域活動推進委員会(6月以降会員委員会)

開催月:4月、10月、11月、1月 計4回

2. 国内行事委員会

委員長:沖田文明 理事

副委員長:金井英夫 理事

副委員長:實 清隆 理事

副委員長:吉田俊朗 常務理事

開催月:5月、9月、12月、1月、2月、3月 計6回

※2024年5月は国際理解・文化事業委員会として実施

3. 広報企画委員会

会報アジアネット誌面企画・編集を中心に開催。

委員長:法花敏郎 理事

副委員長:柳井一朗 理事

開催月:4月、5月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、1月、2月、3月 計11回開催

V. 特別委員会

1. 次世代への活動継承検討委員会

本会の活動を次の世代につなぎ継続させるため、以下について検討・協議した。

1)JAFSの現状と課題、課題解決の方策

2)会員増強&会員満足度向上のための具体策

3)全事業&行事(海外&国内)の精査・見直し

4)JAFSのコンセプト・立ち位置・方向性について

1)～3)についての検討結果は、次年度事業計画策定に活かしてもらうために、2月の常任理事連絡会を通じて各委員会へ提案した。1)で抽出された課題の一つである4)については、次年度に継続して検討・協議する。

委員長:玉城博和 理事

副委員長:松原 正 理事

委員:端無 勝 理事、渡辺治彦 理事、福澤邦治 理事

開催月:9月、11月、12月、1月、3月、3月 計6回実施

VI. 法人管理部門

1.公益社団法人の法人管理に必要とされる総会・理事会の開催、及び財務状況の確認、各事業のガバナンス実施状況の確認等、法人管理に関する業務を行った。

V. 運営管理

総務財務委員会

委員長: 上野孝一

池田 直樹(法務担当)

市川 晃(財務担当)

櫻井 紘哉(総務担当)

玉城 博和(活動検討(特別委員会)担当)

松原 正(コンプライアンス担当)

渡辺 治彦(会員増強担当)

吉田 俊朗(庶務担当)

開催月: 原則として 8 月を除き毎月開催、計 11 回。

※海外ネパール事務所における内部統制状況等の確認を 2 月に実施した。

2. 常任理事連絡会

各委員会委員長における、委員会の進捗や事業展開の確認をあらたにおこなった。また、公益法人制度改正における必要な手続きなどを行い、実施した。

構成メンバー

- ・上野孝一(総務財務委員会委員長)
- ・松原正(公Ⅰ事業委員会委員長)
- ・端無勝(公Ⅱ事業委員会委員長)
- ・宮川眞一(公Ⅲ事業委員会委員長)
- ・渡辺治彦(公Ⅳ事業委員会会員委員会委員長)
- ・沖田文明(公Ⅳ事業委員会国内行事委員会委員長)
- ・法花敏郎(公Ⅳ事業委員会広報委員会委員長)
- ・玉城博和(特別委員会次代への活動継承検討委員会委員長)
- ・吉田俊朗常務理事

【事業報告の付属明細書】

2024 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上



臨時理事会にて創始者村上公彦氏を相談役として委任



ラオスへの教育支援貢献者へ感謝状贈呈



第 13 回総会での会員との懇親の様子



3 月開催 理事会